

令和 3 年度（2021 年度）実施

県民意識調査報告書

【概要版】

調 査 の 概 要

1. 目 的

県民の日常生活に関する満足度、当面する主要な課題に対する意向、行政に対する期待・要望など、時代とともに変化する県民意識の動向を的確に把握し、山梨県総合計画を推進する上での参考資料とする。

2. 調査内容と項目

項目	調査内容		質問項目数
県民生活の満足度	県民生活を8領域（健康、安全、居住環境、労働、所得・消費、教育・文化、余暇、福祉・連帯）に区分し、各領域および生活全般の満足度を把握する。（問1）		44
主要な事項についての 県民の選好度	県民の意識	定住意識（問2） 山梨県のよいところ（問3） 山梨県のよくないところ（問4） 「豊かさ」のイメージ（問5）	4
	行政の施策についての要望	行政の施策についての要望（問6）	1
	総合計画を推進する上での主要な課題や施策についての関心、要望	地域産業の振興（問7） 農業の振興（問8） 林業の振興（問9） 環境の保全（問10～問11） 観光の振興（問12） 交通政策（問13） 地域福祉（問14） 保健医療（問15） 子育て支援（問16） 防災・災害対策（問17） 安全な社会づくり（問18） 学校教育（問19） 文化・スポーツ・生涯学習（問20） 二拠点居住・移住・定住の促進（問21）	15
	公共施設整備についての要望	公共施設整備についての要望（問22）	1
	期待する山梨県の将来像	期待する山梨県の将来像（問23）	1
	【重点項目1】 未知なる感染症への対策	未知なる感染症への対策（問24）	1
	【重点項目2】 コミュニティづくり	コミュニティづくり（問25）	1
	【重点項目3】 SDGs	SDGs（問26～問28）	3
	回答者の属性 (フェイスシート)	性別、年齢、職業、居住年数、県外居住経験	

3. 調査の仕様

仕様の種別	仕 様
調査区域	山梨県全域
母集団	18歳以上の県民
標本数	2,000人（令和2年10月1日現在常住人口調査データを基本とする）
抽出方法	層化二段無作為抽出法 （全県域を4地区に分割し、200地点を各地区に母集団の大きさに応じて配分し、住民基本台帳から抽出する）
調査期間	令和3年7月3日～8月12日
調査方法	調査員による留置記入依頼法・オンライン調査 併用
調査機関	設計・分析 公益財団法人山梨総合研究所

4. 地域区分

地域名		構成する市町村名（数）
中北	峡中	甲府市、南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町（4市1町）
	峡北	韮崎市、北杜市（2市）
峡東		山梨市、笛吹市、甲州市（3市）
峡南		市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町（5町）
富士・東部		富士吉田市、都留市、大月市、上野原市、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、小菅村、丹波山村（4市2町6村）

※各地域県民センターの管轄地域を基本に、過去との比較分析を考慮し区分している。

5. 回収状況（地域別）

地域名		地点数	標本数	回収数	回収率 （%）	前回回収率 （%）
中北	峡中	95	950	737	77.6	81.0
	峡北	18	180	141	78.3	79.4
峡東		32	320	258	80.6	85.6
峡南		12	120	98	81.7	82.9
富士・東部		43	430	355	82.6	85.2
総合計		200	2,000	1,589	79.5	82.7

6. 回答者の属性

属性区分	回答者数 (人)	割合 (%)
総数	1,589	100.0
【性別】		
男性	786	49.5
女性	795	50.0
その他・無回答	8	0.5
【年齢層別】		
18～19歳	41	2.6
20～29歳	142	8.9
30～39歳	185	11.6
40～49歳	251	15.8
50～59歳	273	17.2
60～69歳	268	16.9
70歳以上	427	26.9
無回答	2	0.1
【職業別】		
農林水産業	69	4.3
商工・サービス業	211	13.3
自由業	33	2.1
会社・商店・工場等勤務	495	31.2
官公庁・公共企業体勤務	100	6.3
学生	62	3.9
主婦・主夫(パート)	183	11.5
主婦・主夫(専業)	245	15.4
その他	178	11.2
無回答	13	0.8

属性区分	回答者数 (人)	割合 (%)
【居住年数別】		
1年未満	16	1.0
1～5年未満	55	3.5
5～10年未満	36	2.3
10～20年未満	146	9.2
20年以上	1,332	83.8
無回答	4	0.3
【県外居住経験別】		
ある	791	49.8
ない	782	49.2
無回答	16	1.0
【市郡別】		
市部	1,339	84.3
郡部	250	15.7
【地域別】		
峡中	737	46.4
峡北	141	8.9
峡東	258	16.2
峡南	98	6.2
富士・東部	355	22.3

参考：性別・年齢層別

単位：%(人)

性別・年齢	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
男 49.5 (786)	0.9 (15)	4.9 (78)	5.9 (94)	7.0 (111)	8.7 (138)	9.0 (143)	13.0 (207)	0.0 (0)
女 50.0 (795)	1.6 (25)	3.8 (61)	5.7 (91)	8.7 (139)	8.5 (135)	7.9 (125)	13.8 (219)	0.0 (0)
その他 0.3 (5)	0.1 (1)	0.2 (3)	0.0 (0)	0.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
無回答 0.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.1 (1)	0.1 (2)
計 100 (1,589)	2.6 (41)	8.9 (142)	11.6 (185)	15.8 (251)	17.2 (273)	16.9 (268)	26.9 (427)	0.1 (2)

調査結果の分析

第1章 県民生活の満足度

1 満足度に関する回答の概要

県民が居住環境や日々の暮らしの中でどの程度満足しているかを見るため、図表1-1に掲げる各項目について、「満足」、「どちらかといえば満足」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満」、「不満」の5段階評価で回答を求めた。過去3回の調査結果との比較と併せ、今回の調査結果をまとめると、図表1-2のとおりである。

図表 1-1 満足度質問項目一覧

領域	項目（略称名）	質問内容
健康	1 日常医療	日ごろ病気になったときにかかる病院や医院の医療について
	2 救急医療	休日や夜間などの救急医療について
	3 検診・相談	市役所、町村役場が行う生活習慣病検診や医療相談について
	4 健康全般	あなたの健康を守るための環境全般について
安全	5 交通安全	毎日の生活の中での交通の安全性について
	6 防犯・防火	あなたがお住まいの地域での防犯体制や防火活動について
	7 自然災害	地震や大雨による浸水・がけくずれなど自然災害からの安全性について
	8 安全全般	あなたの生活全般の安全性について
居住環境	9 自然環境	山や川などの自然環境について
	10 大気汚染等	大気汚染や水質汚濁、騒音、振動、悪臭などの状況について
	11 公園広場等	公園、広場、遊び場などについて
	12 ごみ・生活排水	あなたの地域でのごみや生活排水の処理について
	13 住宅	現在お住まいの住宅の敷地や建物の広さについて
	14 公共交通機関	バス、鉄道など公共交通の利便性について
	15 道路	あなたの地域の道路の整備状況について
	16 買い物	日常の買い物の利便性について
	17 居住環境全般	あなたの居住環境全般について
労働	18 就職の機会	自分の望む仕事に就職、転職する機会や職業紹介について
	19 労働条件	労働時間や休日、福利厚生、仕事の安全衛生などについて
	20 仕事のやりがい	今の仕事のやりがいについて
	21 労働全般	あなたの今のお仕事全般について
所得・消費	22 所得	あなたのご家庭の所得について
	23 資産	あなたのご家庭の資産（預貯金、株式、不動産など）について
	24 消費	商品（サービス）の種類や豊富さについて
	25 物価	最近の物価について
	26 所得・消費全般	あなたのご家庭の暮らしむき全般について
	教育・文化	27 幼稚園・保育所
28 小中高の教育		小・中学校、高等学校などの教育について
29 高等教育の機会		県内で大学、短期大学、専門学校などの教育を受ける機会について
30 家庭教育		しつけなどの各家庭の教育について
31 生涯学習		趣味の会、教養講座などの文化活動に参加したり、すぐれた芸術文化に接したりする機会について
32 文化施設		図書館、文化ホール、美術館、博物館などの施設について
33 文化財・伝統継承		史跡、文化財、郷土芸能、まつりなどの保存や伝承について
34 教育・文化全般		あなたや家族が日ごろ接している教育や文化全般について
余暇		35 自由時間
	36 余暇施設	スポーツ、レクリエーションなどのための身近な施設やそれらの利用のしやすさについて
	37 娯楽	県内の映画館、劇場、遊園地などでの娯楽・レジャーについて
	38 余暇情報	催し物・イベントなどの余暇情報を得る機会について
	39 自然と親しむ機会	ハイキングなど自然と親しむ機会について
	40 余暇全般	あなたの休日や余暇の過ごし方全般について
福祉・連帯	41 地域とのつながり	近所づきあいや地域で行なわれる行事への住民の参加について
	42 福祉施策	お年寄り、子ども、障害者などに対する国や県の施策について
	43 福祉・連帯全般	あなたがお住まいの地域での人のつながりや福祉サービス全般について
44	生活全般	あなたの生活全般について

(1) 「生活全般」の満足度

「生活全般」の満足度は、図表1-2の最下欄（P10参照）に示されるように、「満足」が10.5%、「どちらかといえば満足」が43.0%である。満足層（「満足」＋「どちらかといえば満足」）の比率は、前回（平成29年度調査）の48.1%を5.4ポイント、前々回（平成24年度調査）の42.9%を10.6ポイント上回る53.5%である。50%を超えるのは、20年ぶりであり、ここ30年間で最も高い値となった。また、「どちらかといえば不満」は7.3%、「不満」は2.5%であり、不満層（「どちらかといえば不満」＋「不満」）は、前々回の15.0%と前回の12.3%を下回る9.8%であった。

満足層と不満層の差（満足傾向）は43.7%であり、前回の35.8%を7.9ポイント上回り、40%台となった。なお、「どちらともいえない」という中間的な層は、前回の37.3%から3.4ポイント減少し33.9%となった。

(2) 「領域全般」の満足度

満足層の割合が最も大きい領域となったのは、前々回及び前回から引き続き、「居住環境全般」で60.5%である。次いで、「余暇全般」の52.2%、「安全全般」の49.6%、「健康全般」の46.2%、「労働全般」の41.3%、「所得・消費全般」の41.2%、「教育・文化全般」の28.9%、最後に「福祉・連帯全般」の27.1%の順であった。前回と比較すると、「福祉・連帯全般」の満足層の割合に変化がなかった以外、すべての領域において満足層の割合が増加しており、特に「居住環境全般」、「所得・消費全般」、「余暇全般」がそれぞれ4.1ポイント増加しているなど、領域全般における県民の満足層の割合は前回調査に比べ拡大している。

また、すべての領域において満足傾向となっており、その傾向の強い順に示すと、50.0%の「居住環境全般」が最上位となり、次いで40.2%の「安全全般」、40.0%の「余暇全般」、38.0%の「健康全般」、29.8%の「労働全般」、23.5%の「所得・消費全般」、20.4%の「教育・文化全般」、14.4%の「福祉・連帯全般」と続いている。前回の順位と比較すると、前回6位「教育・文化全般」と前回7位「所得・消費全般」が今回それぞれ7位と6位と、順位が入れ替わっている。なお、すべての領域において前回よりも満足傾向の比率が増加しており、特に「所得・消費全般」で+8.2ポイント、「居住環境全般」で+6.3ポイント、「余暇全般」で+5.7ポイントと増加している。

(3) 「個別項目」の満足度

満足層の割合が大きい項目（50%以上）としては、大きい順に、「住宅」（67.7%）、「自然環境」（63.8%）、「日常医療」（63.1%）、「自由時間」（58.1%）、「ごみ・生活排水」（56.7%）、「買い物」（54.5%）、「大気汚染等」（51.8%）が挙げられる。なお、「住宅」、「自然環境」、「日常医療」、「自由時間」の4項目は、過去3回の調査においても満足層の割合が50%以上となっている。

これに対して、満足層の割合が小さい項目（20%以下）としては、小さい順に「物価」（11.2%）、「高等教育の機会」（15.8%）、「生涯学習」（17.4%）、「余暇情報」（18.3%）の4項目であり、「物価」、「高等教育の機会」、「生涯学習」の3項目は前回から引き続き満足層が20%以下となっている。

一方、不満層の割合が大きい項目（50%以上）は、「公共交通機関」（50.4%）の1項目であり、前回の調査では2項目であったが、今回は1項目のみとなった。

次に、満足傾向・不満傾向について見ると、満足傾向（満足層の割合が不満層の割合を上回るもの）が強い項目（30%以上）は、強い順に、「自然環境」（55.1%）、「住宅」（55.0%）、「日常医療」（52.5%）、「ごみ・生活排水」（41.8%）、「自由時間」（41.2%）、「大気汚染等」（35.5%）、「仕事のやりがい」（33.1%）、「防犯・防火」（32.7%）、「買い物」（30.7%）の9項目となった。一方、不満傾向（満足層の割合が不満層の割合が上回るもの）が強い項目は、強い順に、「物価」（38.6%）、「公共交通機関」（30.1%）、「娯楽」（13.9%）、「資産」（6.0%）、「余暇情報」（5.6%）、「高等教育の機会」（2.8%）、「福祉施策」（2.4%）の7項目となった。

なお、前回との比較において、満足層の増減・不満層の増減を組み合わせで整理すると、次表のとおりである。

区分	「不満層」が減少			「不満層」が増加
「満足層」が増加	○日常医療 ○防犯・防火 ○公共交通機関 ○就職の機会 ○所得 ○物価 ○自然と親しむ機会	○救急医療 ○自然災害 ○道路 ○労働条件 ○資産 ○家庭教育 ○福祉施策	○交通安全 ○大気汚染等 ○買い物 ○仕事のやりがい ○消費 ○自由時間	<input type="checkbox"/> 自然環境 <input type="checkbox"/> ごみ・生活排水 <input type="checkbox"/> 住宅
「満足層」が減少	・検診・相談 ・小中高の教育 ・余暇施設	・公園広場等 ・高等教育の機会 ・娯楽	・幼稚園・保育所 ・文化施設 ・余暇情報	●生涯学習 ●文化財・伝統継承 ●地域とのつながり

表の左上の象限（満足層増加・不満層減少）の項目は、満足度水準を引き上げる又は維持する方向に作用するが、ここには全体35項目中の半数以上の20項目（前回29項目）が属

する。一方、右下の象限（満足層減少・不満層増加）の項目は、満足度水準を引き下げる方向に作用するため、今後注視していくべき項目と位置付けられるが、今回は「生涯学習」、「文化財・伝統継承」、「地域とのつながり」の3項目が属するだけであることから、全体的に県民満足度は増加傾向にある。

なお、前回、右下の象限に属していた「公共交通機関」、「娯楽」が、それぞれ左上の象限と左下の象限に移動している。また、左下の象限（満足層・不満層ともに減少）に入る項目のうち、「文化施設」、「余暇情報」は満足層の減少度合いが不満層の減少を超えて大きくなっている。

図表 1-2 質問項目別満足度（全県）

（単位：％）

領域	項目	年度	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
			満足	どちらともいえない	不満	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	わからない				
健康	日常医療	H20	14.8	37.6	26.2	11.1	6.4	3.9	52.4	17.5	34.9	
		H24	15.4	38.9	25.1	11.2	5.6	3.7	54.3	16.8	37.5	
		H29	18.7	40.1	23.9	8.6	5.0	3.7	58.8	13.6	45.2	
		R3	22.3	40.8	21.9	7.5	3.1	4.3	63.1	10.6	52.5	
	救急医療	H20	5.1	17.5	29.2	17.1	14.5	16.6	22.6	31.6		9.0
		H24	6.0	20.5	31.5	15.6	11.1	15.3	26.5	26.7		0.2
		H29	8.6	22.5	28.5	15.5	9.4	15.5	31.1	24.9	6.2	
		R3	10.5	23.2	29.5	12.1	6.7	18.1	33.7	18.8	14.9	
	検診・相談	H20	8.2	20.1	37.6	8.4	3.8	21.9	28.3	12.2	16.1	
		H24	8.6	24.4	38.5	6.9	3.0	18.6	33.0	9.9	23.1	
		H29	8.4	26.2	37.7	5.3	2.4	20.0	34.6	7.7	26.9	
		R3	10.8	23.2	34.9	4.3	2.2	24.5	34.0	6.5	27.5	
	健康全般	H20	6.5	26.3	39.6	12.5	5.1	10.1	32.8	17.6	15.2	
		H24	7.5	29.6	39.6	8.6	4.3	10.5	37.1	12.9	24.2	
		H29	9.7	33.3	37.5	7.3	3.1	9.1	43.0	10.4	32.6	
		R3	13.2	33.0	34.8	5.9	2.3	10.9	46.2	8.2	38.0	
安全	交通安全	H20	7.0	25.0	34.4	18.3	11.9	3.3	32.0	30.2	1.8	
		H24	7.1	29.3	32.4	18.4	9.6	3.3	36.4	28.0	8.4	
		H29	8.9	30.4	33.6	16.6	8.1	2.4	39.3	24.7	14.6	
		R3	9.9	31.3	30.7	16.7	7.2	4.2	41.2	23.9	17.3	
	防犯・防火	H20	7.0	27.1	40.6	10.7	4.7	10.0	34.1	15.4	18.7	
		H24	6.5	31.8	39.7	10.4	4.1	7.5	38.3	14.5	23.8	
		H29	8.6	32.8	36.5	8.6	3.6	9.9	41.4	12.2	29.2	
		R3	10.6	32.3	36.6	6.9	3.3	10.4	42.9	10.2	32.7	
	自然災害	H20	7.1	21.5	36.5	14.1	9.5	11.3	28.6	23.6	5.0	
		H24	7.4	25.7	37.4	12.0	8.2	9.3	33.1	20.2	12.9	
		H29	7.7	25.5	37.5	12.8	6.2	10.3	33.2	19.0	14.2	
		R3	9.3	25.2	36.5	11.9	6.5	10.6	34.5	18.4	16.1	
	安全全般	H20	5.6	30.4	42.1	12.0	4.3	5.7	36.0	16.3	19.7	
		H24	6.6	34.0	41.8	9.2	3.5	4.9	40.6	12.7	27.9	
		H29	8.9	37.4	37.3	8.0	2.4	6.0	46.3	10.4	35.9	
		R3	11.0	38.6	35.3	7.1	2.3	5.7	49.6	9.4	40.2	

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		■満足 ■どちらともいえない ■不満 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■わからない									
		年度									
居住環境	自然環境	H20	18.1	39.9	22.9	9.3	5.2	4.7	58.0	14.5	43.5
		H24	21.2	41.0	21.9	7.1	4.0	4.8	62.2	11.1	51.1
		H29	24.2	39.0	23.5	5.6	2.6	5.1	63.2	8.2	55.0
		R3	25.4	38.4	21.5	5.7	3.0	6.0	63.8	8.7	55.1
	大気汚染等	H20	9.3	33.2	25.9	16.6	11.7	3.3	42.5	28.3	14.2
		H24	11.4	34.6	26.9	14.0	9.6	3.4	46.0	23.6	22.4
		H29	14.4	37.3	25.9	12.0	6.5	3.9	51.7	18.5	33.2
		R3	15.7	36.1	26.7	10.4	5.9	5.2	51.8	16.3	35.5
	公園広場等	H20	7.2	25.3	29.5	19.6	11.7	6.6	32.5	31.3	1.2
		H24	9.0	24.2	31.4	18.1	11.6	5.7	33.2	29.7	3.5
		H29	10.8	27.0	30.4	15.6	9.5	6.7	37.8	25.1	12.7
		R3	10.1	27.5	29.3	14.9	9.8	8.4	37.6	24.7	12.9
	ごみ・生活排水	H20	12.7	34.3	28.1	12.5	8.0	4.3	47.0	20.5	26.5
		H24	14.5	36.6	28.3	11.6	5.8	3.2	51.1	17.4	33.7
		H29	17.0	39.2	24.0	9.7	5.0	5.1	56.2	14.7	41.5
		R3	19.3	37.4	23.2	9.5	5.4	5.2	56.7	14.9	41.8
	住宅	H20	26.0	36.9	18.0	10.7	7.0	1.6	62.9	17.7	45.2
		H24	25.3	38.3	21.3	9.9	4.3	1.0	63.6	14.2	49.4
		H29	29.7	37.2	19.0	8.5	3.9	1.7	66.9	12.4	54.5
		R3	31.8	35.9	17.7	9.5	3.2	1.8	67.7	12.7	55.0
	公共交通機関	H20	5.7	13.1	18.1	22.3	36.8	3.8	18.8	59.1	40.3
		H24	5.7	15.5	21.1	23.0	30.2	4.4	21.2	53.2	32.0
		H29	4.9	13.3	20.9	23.8	32.6	4.5	18.2	56.4	38.2
		R3	7.0	13.3	22.9	23.7	26.7	6.4	20.3	50.4	30.1
	道路	H20	7.6	28.1	26.5	18.8	17.0	2.1	35.7	35.8	0.1
		H24	6.8	28.1	27.4	20.6	15.5	1.6	34.9	36.1	1.2
		H29	7.7	28.8	27.5	20.6	12.8	2.6	36.5	33.4	3.1
		R3	9.3	28.9	26.6	19.8	11.6	3.8	38.2	31.4	6.8
買い物	H20	13.8	34.3	20.7	16.7	13.3	1.2	48.1	30.0	18.1	
	H24	13.1	36.4	21.2	15.2	13.3	0.9	49.5	28.5	21.0	
	H29	14.7	35.4	20.3	16.4	11.6	1.6	50.1	28.0	22.1	
	R3	18.9	35.6	19.6	14.0	9.8	2.0	54.5	23.8	30.7	
居住環境全般	H20	10.4	40.2	31.6	11.9	4.4	1.5	50.6	16.3	34.3	
	H24	10.9	41.2	33.1	8.9	4.3	1.6	52.1	13.2	38.9	
	H29	13.2	43.2	29.1	9.0	3.7	1.8	56.4	12.7	43.7	
	R3	16.1	44.4	25.9	7.9	2.6	3.0	60.5	10.5	50.0	
労働	就職の機会	H20	4.6	14.4	28.1	14.4	11.1	27.4	19.0	25.5	6.5
		H24	4.6	14.1	32.0	13.0	9.7	26.5	18.7	22.7	4.0
		H29	6.8	16.1	32.2	11.8	8.5	24.6	22.9	20.3	2.6
		R3	8.4	17.2	29.3	9.1	6.0	30.1	25.6	15.1	10.5
	労働条件	H20	4.7	21.8	28.4	13.9	10.3	20.8	26.5	24.2	2.3
		H24	6.3	18.2	31.9	12.8	9.7	21.0	24.5	22.5	2.0
		H29	6.7	21.8	30.4	11.2	9.3	20.6	28.5	20.5	8.0
		R3	11.0	22.0	25.6	9.8	7.0	24.5	33.0	16.8	16.2
	仕事のやりがい	H20	11.0	30.7	25.1	8.2	5.8	19.1	41.7	14.0	27.7
		H24	11.7	29.3	27.2	7.0	6.0	18.7	41.0	13.0	28.0
		H29	12.3	29.0	26.5	7.4	5.3	19.5	41.3	12.7	28.6
		R3	15.2	27.7	24.9	5.8	4.0	22.5	42.9	9.8	33.1
	労働全般	H20	8.8	30.4	26.0	9.8	6.3	18.8	39.2	16.1	23.1
		H24	9.9	28.7	28.9	8.3	6.3	17.9	38.6	14.6	24.0
		H29	10.8	29.0	26.8	8.0	6.2	19.2	39.8	14.2	25.6
		R3	13.3	28.0	24.5	7.2	4.3	22.6	41.3	11.5	29.8

領域	項目	満足度						満足層	不満層	満足傾向 (+)	不満傾向 (-)
		年度		■満足 ■どちらともいえない ■不満		■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■わからない					
所得・消費	所得	H20	4.0	20.0	29.0	21.0	21.1	4.9	24.0	42.1	18.1
		H24	3.9	15.9	36.0	19.1	19.4	5.7	19.8	38.5	18.7
		H29	6.7	20.7	34.1	18.3	14.8	5.4	27.4	33.1	5.7
		R3	8.4	21.6	32.6	18.8	11.0	7.7	30.0	29.8	0.2
	資産	H20	2.7	13.6	34.2	18.7	20.2	10.5	16.3	38.9	22.6
		H24	3.0	13.1	37.9	19.1	17.2	9.7	16.1	36.3	20.2
		H29	5.2	15.7	38.5	16.6	14.0	10.0	20.9	30.6	9.7
		R3	6.3	16.8	36.6	17.6	11.5	11.2	23.1	29.1	6.0
	消費	H20	4.5	23.8	37.9	16.1	8.9	8.9	28.3	25.0	3.3
		H24	4.3	23.7	41.1	14.9	6.4	9.7	28.0	21.3	6.7
		H29	5.9	22.1	41.4	13.4	7.3	9.9	28.0	20.7	7.3
		R3	7.4	22.4	38.2	14.2	5.2	12.6	29.8	19.4	10.4
	物価	H20	1.6 0.4	8.3	23.1	64.0		2.7	2.0	87.1	85.1
		H24	1.6	8.5	33.3	26.5	26.6	3.5	10.1	53.1	43.0
		H29	2.4	8.4	34.2	28.3	22.3	4.4	10.8	50.6	39.8
		R3	2.6	8.6	32.3	27.2	22.6	6.6	11.2	49.8	38.6
	所得・消費全般	H20	3.3	24.8	35.1	18.9	14.7	3.2	28.1	33.6	5.5
		H24	4.7	24.3	39.8	17.3	10.6	3.4	29.0	27.9	1.1
		H29	7.4	29.7	38.7	13.9	7.9	2.4	37.1	21.8	15.3
		R3	9.4	31.8	36.8	12.1	5.6	4.4	41.2	17.7	23.5

教育・文化	幼稚園・保育所	H20	6.4	26.8	27.3	6.5	4.2	28.8	33.2	10.7	22.5
		H24	7.4	23.3	30.7	6.7	4.7	27.1	30.7	11.4	19.3
		H29	7.7	24.8	29.6	7.0	5.0	25.9	32.5	12.0	20.5
		R3	8.4	21.5	27.2	4.7	2.8	35.4	29.9	7.5	22.4
	小中の教育	H20	4.4	19.9	29.1	13.3	8.0	25.2	24.3	21.3	3.0
		H24	4.8	18.9	30.7	11.8	8.3	25.4	23.7	20.1	3.6
		H29	6.3	22.9	33.3	9.4	4.6	23.5	29.2	14.0	15.2
		R3	6.9	20.3	28.9	6.4	3.8	33.7	27.2	10.2	17.0
	高等教育の機会	H20	2.2	11.1	28.8	18.9	10.2	28.7	13.3	29.1	15.8
		H24	2.5	10.2	33.2	16.6	9.6	27.9	12.7	26.2	13.5
		H29	2.8	13.5	31.8	18.1	8.7	25.1	16.3	26.8	10.5
		R3	5.0	10.8	31.5	11.6	7.0	34.1	15.8	18.6	2.8
	家庭教育	H20	1.7	12.3	34.6	20.4	14.8	16.2	14.0	35.2	21.2
		H24	2.6	11.1	39.2	16.4	11.8	18.9	13.7	28.2	14.5
		H29	3.6	15.3	41.7	13.1	7.1	19.2	18.9	20.2	1.3
		R3	5.0	16.7	38.3	8.3	3.7	28.1	21.7	12.0	9.7
	生涯学習	H20	2.3	17.7	39.0	11.4	6.5	23.1	20.0	17.9	2.1
		H24	2.5	14.9	43.3	11.3	4.6	23.5	17.4	15.9	1.5
		H29	3.4	16.0	42.9	9.7	4.4	23.6	19.4	14.1	5.3
		R3	4.3	13.1	37.0	10.4	5.0	30.2	17.4	15.4	2.0
文化施設	H20	6.6	29.8	31.0	11.6	7.7	13.3	36.4	19.3	17.1	
	H24	7.2	31.0	31.4	11.0	5.5	13.8	38.2	16.5	21.7	
	H29	7.4	32.9	31.5	10.1	5.1	13.0	40.3	15.2	25.1	
	R3	8.7	29.7	30.6	9.1	4.3	17.6	38.4	13.4	25.0	
文化財・伝統継承	H20	4.4	22.8	38.8	10.0	3.6	20.3	27.2	13.6	13.6	
	H24	4.9	24.0	40.5	8.3	3.2	19.1	28.9	11.5	17.4	
	H29	5.1	27.2	40.0	7.6	2.2	17.9	32.3	9.8	22.5	
	R3	6.4	20.6	39.6	7.4	2.6	23.3	27.0	10.0	17.0	
教育・文化全般	H20	2.6	20.3	47.7	9.4	3.2	17.0	22.9	12.6	10.3	
	H24	3.4	21.2	48.2	7.9	2.5	16.8	24.6	10.4	14.2	
	H29	3.8	24.2	46.6	5.9	2.3	17.2	28.0	8.2	19.8	
	R3	5.0	23.9	40.8	6.2	2.3	21.8	28.9	8.5	20.4	

2 「生活全般」の属性別満足度

(1) 地域別による満足度

図表1-3は、「生活全般」の満足度について地域別に示した表である。

まず、満足層の割合の大きい地域順は、「峡中」及び「峡東」（54.2%）、「富士・東部」（53.2%）、「峡南」（52.1%）、「峡北」（51.0%）となっている。一方、不満層の割合を見ると、大きい順に、「富士・東部」（11.3%）、「峡中」（10.0%）、「峡北」（9.9%）、「峡南」（9.2%）、「峡東」（7.0%）となっている。

次に、図表1-4に示す方法で算定した満足度得点を見ると、得点の高い地域順に、「峡東」（60点）、「峡中」（54点）、「峡南」（52点）、「峡北」（50点）、「富士・東部」（49点）となっている。

最後に、満足傾向・不満傾向について見ると、すべての地域において満足傾向（満足層＞不満層）となっており、満足傾向の強い順としては、「峡東」（47.2%）、「峡中」（44.2%）、「峡南」（42.9%）、「富士・東部」（41.9%）、「峡北」（41.1%）となっている。

図表 1-3 「生活全般」の満足度（地域別）

(単位：点、%)

地域	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえ ば満足	計		どちらか といえ ば不 満	不満	計			
全 県	H20	29	5.0	39.7	44.7	35.4	12.4	4.7	17.1	2.7	27.6	
	H24	31	6.9	36.0	42.9	39.7	10.7	4.3	15.0	2.5	27.9	
	H29	42	8.9	39.2	48.1	37.3	9.1	3.2	12.3	2.3	35.8	
	R3	53	10.5	43.0	53.5	33.9	7.3	2.5	9.8	2.8	43.7	
峡中	H20	30	4.3	41.4	45.7	35.6	11.5	4.6	16.1	2.7	29.6	
	H24	37	7.8	37.3	45.0	39.4	10.2	3.0	13.2	2.4	31.8	
	H29	46	9.1	41.9	51.0	35.0	8.5	3.2	11.7	2.3	39.3	
	R3	54	11.3	42.9	54.2	33.4	7.2	2.8	10.0	2.4	44.2	
峡北	H20	26	6.4	32.7	39.1	43.6	9.6	5.1	14.7	2.6	24.4	
	H24	30	7.1	37.4	44.5	35.5	12.9	4.5	17.4	2.6	27.1	
	H29	48	9.1	39.2	48.3	44.1	6.3	1.4	7.7	0.0	40.6	
	R3	50	9.9	41.1	51.0	37.6	8.5	1.4	9.9	1.4	41.1	
峡東	H20	25	4.1	38.4	42.5	35.1	13.9	4.5	18.4	4.0	24.1	
	H24	20	4.3	37.6	41.8	36.9	13.5	6.4	19.9	1.4	21.9	
	H29	41	9.4	37.2	46.6	35.4	11.6	2.5	14.1	4.0	32.5	
	R3	60	11.2	43.0	54.2	34.9	5.8	1.2	7.0	3.9	47.2	
峡南	H20	22	3.2	43.5	46.7	26.6	20.2	4.0	24.2	2.4	22.5	
	H24	24	5.2	35.7	40.9	37.4	13.9	4.3	18.3	3.5	22.6	
	H29	45	7.8	44.0	51.7	35.3	6.9	4.3	11.2	1.7	40.5	
	R3	52	8.2	43.9	52.1	37.8	9.2	0.0	9.2	1.0	42.9	
富士・東部	H20	32	6.8	39.2	46.0	34.9	11.8	5.0	16.8	2.3	29.2	
	H24	30	7.4	32.1	39.5	44.4	7.9	4.9	12.8	3.2	26.7	
	H29	34	8.4	34.2	42.6	41.1	9.9	4.1	14.0	2.3	28.6	
	R3	49	9.3	43.9	53.2	31.8	7.6	3.7	11.3	3.7	41.9	

図表 1-4 満足度の得点と算式

段階	満足	どちらかといえ ば満足	どちらとも いえ ない	どちらかといえ ば不満足	不満
得点	+ 200	+ 100	0	- 100	- 200

$$\text{満足度得点算式} = \{200 \times A + 100 \times B + 0 \times C + (-100) \times D + (-200) \times E\} / m$$

- A: 「満足」と答えた回答者数
- B: 「どちらかといえ
ば満足」と答えた回答者数
- C: 「どちらともいえ
ない」と答えた回答者数
- D: 「どちらかといえ
ば不満足」と答えた回答者数
- E: 「不満」と答えた回答者数
- m: 「わからない」または「不明」を除いた回答者数 (A+B+C+D+E)

(2) 性別による満足度

図表1-5は、性別で見た「生活全般」の満足度を示した表である。

まず、満足層の割合について見ると、「男性」の52.2%に対して「女性」は55.4%と、「女性」の方が3.2ポイント大きくなっている。一方、不満層では「男性」の9.7%に対して「女性」は9.6%と、「男性」の方が0.1ポイント大きい。

満足度得点については、「男性」(52点)より「女性」(55点)が3点高く、満足傾向についても、「女性」(45.8%)が「男性」(42.5%)よりも3.3ポイント大きいなど、総じて、「女性」の方が「男性」よりも満足度水準が高い。

前回の結果と比較すると、「男性」、「女性」とともに満足層の割合は拡大して不満層の割合は縮小、満足度得点は増加していることから、性別に関係なく全体的に満足度水準は向上している。

図表 1-5 「生活全般」の満足度（性別）

(単位: 点、%)

性別	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満足 傾向 (+)	不満 傾向 (-)
			満足	どちらか といえ ば満足	計		どちらか といえ ば不満足	不満	計			
男 性	H20	18	4.2	34.5	38.7	38.0	15.0	5.5	20.5	2.8	18.2	
	H24	30	6.5	35.5	42.0	40.9	11.1	4.1	15.2	2.0	26.8	
	H29	37	7.1	38.7	45.8	39.3	10.2	3.3	13.5	1.5	32.4	
	R3	52	9.8	42.4	52.2	34.9	7.5	2.2	9.7	3.3	42.5	
女 性	H20	39	5.7	44.5	50.2	33.1	10.1	3.9	14.0	2.7	36.2	
	H24	33	7.3	36.6	43.9	38.2	10.2	4.5	14.7	3.1	29.2	
	H29	49	10.8	39.7	50.5	35.2	7.9	3.1	11.0	3.3	39.5	
	R3	55	11.2	44.2	55.4	32.8	7.0	2.6	9.6	2.1	45.8	
その他	H20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	H24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	H29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	R3	40	20.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	

(3) 年齢別による満足度

10歳階級による年齢別の「生活全般」の満足度は、図表1-6のとおりである。

まず、満足層の割合について見ると、大きい順に、75.6%の「18～19歳」、65.5%の「20代」、56.2%の「70歳以上」、52.4%の「50代」、49.3%の「60代」、49.2%の「30代」、48.2%の「40代」となっている。一方、不満層の割合を見ると、小さい順に、0.0%の「18～19歳」、7.0%の「20代」、9.0%の「60代」、9.4%の「70歳以上」、10.8%の「40代」、11.0%の「50代」、12.4%の「30代」となっている。

次に、満足度得点について見ると、高い順に、「18～19歳」(113点)、「20代」(86点)、「70歳以上」(56点)、「30代」(49点)、「50代」(46点)、「60代」(44点)、「40代」(43点)となっている。

前回の結果との比較では、不満層の割合は、「70歳以上」を除き、すべての年齢層で縮小しているが、満足層の割合は「20代」(+21.9ポイント)で2桁の増加が見られる一方、「70歳以上」(-3.0ポイント)で減少しているなど年齢層で傾向にばらつきが見られる。満足度得点では、「20代」(+54点)、「18～19歳」(+31点)で大きく増加している一方、「70歳以上」(-14点)では減少するなど、満足度得点においても年齢層による傾向のばらつきが確認できる。

図表 1-6 「生活全般」の満足度（年齢別）

(単位：点、%)

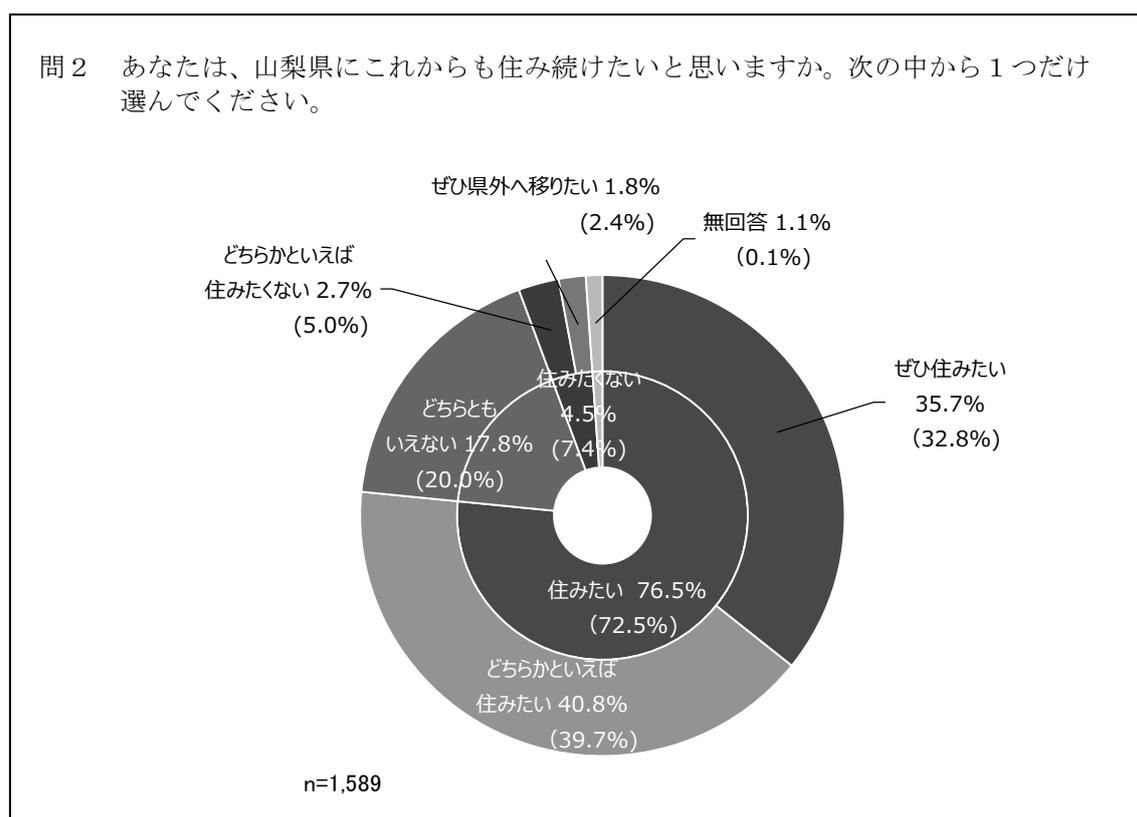
年齢	年度	満足度 得点	満足層			どちら ともい えない	不満層			不明	満 足 傾 向 (+)	不 満 傾 向 (-)
			満足	どちらか といえば 満足	計		どちらか といえば 不満	不満	計			
18 ～19歳	H20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	H24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	H29	82	17.5	52.5	70.0	22.5	2.5	2.5	5.0	2.5	65.0	
	R3	113	31.7	43.9	75.6	19.5	0.0	0.0	0.0	4.9	75.6	
20 ～29歳	H20	37	7.2	37.2	44.4	38.2	10.6	2.9	13.5	3.9	30.9	
	H24	34	7.5	35.4	42.9	38.5	13.7	1.9	15.5	3.1	27.3	
	H29	32	7.9	35.6	43.6	38.6	10.9	4.5	15.3	2.5	28.2	
	R3	86	26.8	38.7	65.5	24.6	4.9	2.1	7.0	2.8	58.5	
30 ～39歳	H20	17	2.9	36.9	39.8	38.0	15.0	5.5	20.5	1.8	19.3	
	H24	31	5.4	41.6	47.0	34.4	11.3	5.4	16.7	1.8	30.3	
	H29	32	9.5	32.9	42.3	39.6	11.3	4.5	15.8	2.3	26.6	
	R3	49	13.5	35.7	49.2	36.2	9.7	2.7	12.4	2.2	36.8	
40 ～49歳	H20	12	2.7	36.9	39.6	33.9	15.0	8.0	23.0	3.7	16.6	
	H24	31	5.8	35.3	41.1	44.5	10.4	2.8	13.2	1.2	27.9	
	H29	39	6.5	40.2	46.7	38.8	9.6	2.7	12.4	2.1	34.4	
	R3	43	6.0	42.2	48.2	39.4	9.2	1.6	10.8	1.6	37.4	
50 ～59歳	H20	29	5.8	39.2	45.0	35.1	13.7	4.4	18.1	1.8	26.9	
	H24	17	6.1	30.9	37.0	41.1	14.6	5.8	20.4	1.5	16.6	
	H29	41	7.2	41.0	48.1	37.2	10.6	2.0	12.6	2.0	35.5	
	R3	46	7.7	44.7	52.4	35.2	7.7	3.3	11.0	1.5	41.4	
60 ～69歳	H20	37	4.5	42.8	47.3	37.0	9.9	2.7	12.6	3.1	34.7	
	H24	37	7.6	37.7	45.3	39.5	9.9	3.4	13.3	1.8	32.0	
	H29	33	5.6	38.5	44.1	40.5	8.9	4.4	13.3	2.1	30.8	
	R3	44	6.0	43.3	49.3	39.6	5.6	3.4	9.0	2.2	40.3	
70歳 以上	H20	47	7.9	46.3	54.2	30.4	8.8	4.0	12.8	2.6	41.4	
	H24	41	8.9	36.7	45.6	37.4	5.0	5.7	10.7	6.4	34.9	
	H29	70	16.5	42.7	59.2	31.1	4.9	1.5	6.4	3.4	52.8	
	R3	56	9.1	47.1	56.2	30.0	7.3	2.1	9.4	4.4	46.8	

※平成 29 年度より「18～19 歳」の年齢層を追加

第2章 主要な事項についての県民の選好度

1 「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」実現の前提となる県民の意識

(1) 定住意識



※図表（ ）内は前回（平成29年度）調査時の数値

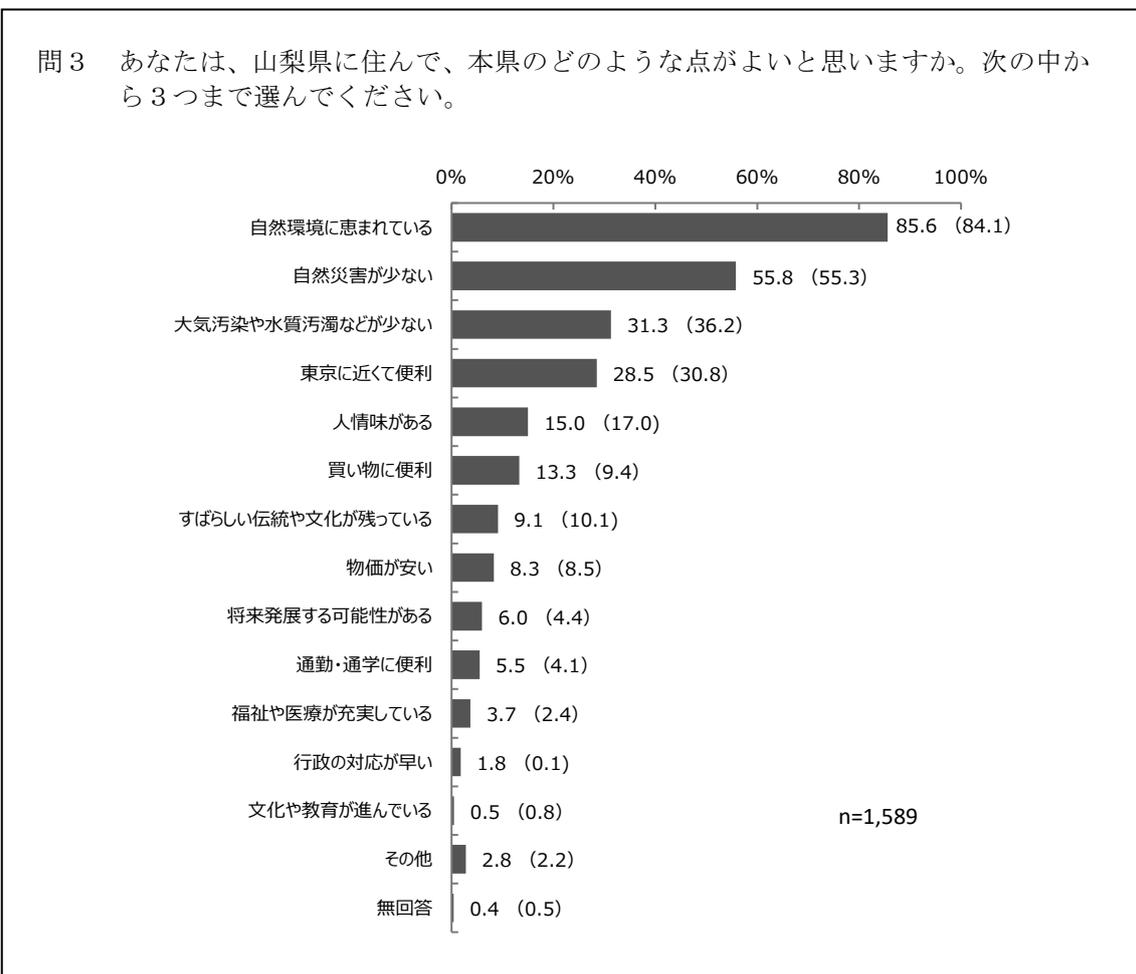
山梨県への定住意識については、「ぜひ住みたい」（35.7%）と「どちらかといえば住みたい」（40.8%）の両方を合わせた「住みたい」（以下「住みたい意向」という。）が76.5%である。また、「どちらかといえば住みたくない」（2.7%）と「ぜひ県外へ移りたい」（1.8%）の両方を合わせた「住みたくない」（以下「住みたくない意向」という。）は4.5%となっている。

前回との比較でみると、「住みたい意向」の増加と「住みたくない意向」の減少がみられ、定住意識については、高い傾向が強くなった。

従来から、性別では女性、年齢別では高齢世代、居住年数別では長期居住者層が、本県に対してより定住意識が高いという基本構造がみられ、この点は今回も同様であった。なお、概ねの項目で「住みたい意向」の増加がみられるものの、「学生」や居住年数「1～5年未満」における「住みたい意向」は依然として低い。

(2) 山梨県のよいところ、よくないところ

A. 山梨県のよいところ



※図表（ ）内は前回（平成29年度）調査時の数値

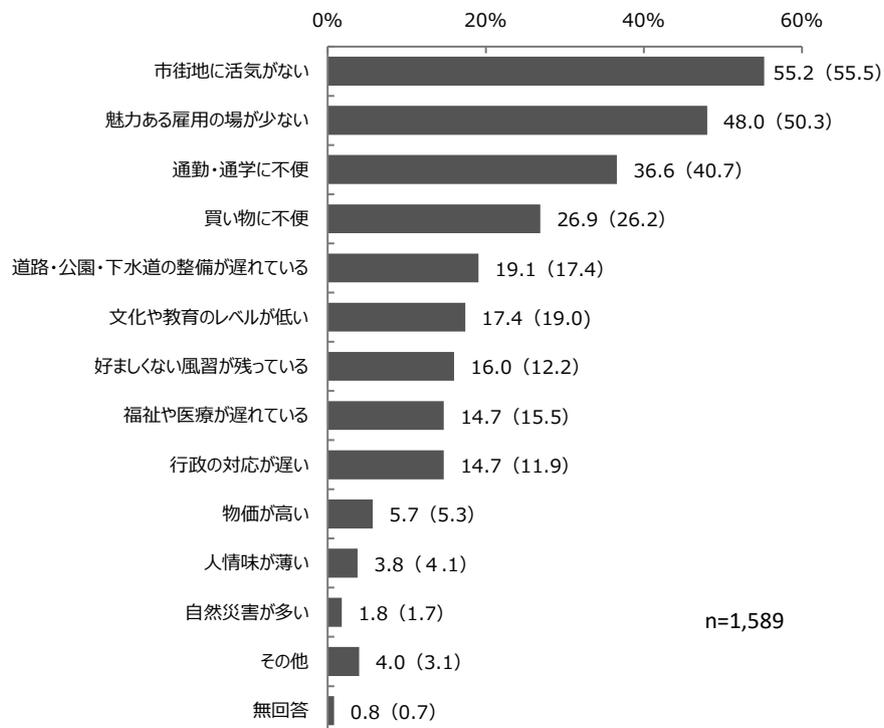
山梨県のよいところについては、「自然環境に恵まれている」（85.6%）が群を抜いて高い回答率を示している。以下「自然災害が少ない」（55.8%）、「大気汚染や水質汚濁などが少ない」（31.3%）、「東京に近くて便利」（28.5%）、「人情味がある」（15.0%）と続いている。

「自然環境に恵まれている」はすべての属性で高い回答率を示し、県民が「山梨県のよいところ」として、強く認識している結果となった。また、「自然災害が少ない」も5割を超える回答率を示しており、災害面での安全性の評価が高い結果となっている。また、「自由業」、「官公庁、公共企業体勤務」や「20代」を中心に「東京に近くて便利」に示される地理的優位性も高い評価を持って受け止められている。

一方で地域別に見たときに、「富士・東部」では「東京に近くて便利」、「峡南」では「人情味がある」、「峡中」では「買い物に便利」の回答率が比較的高く、それぞれで特色がある結果となっている。

B. 山梨県のよくないところ

問4 あなたは、山梨県のどのような点がよくないと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



※図表（ ）内は前回（平成29年度）調査時の数値

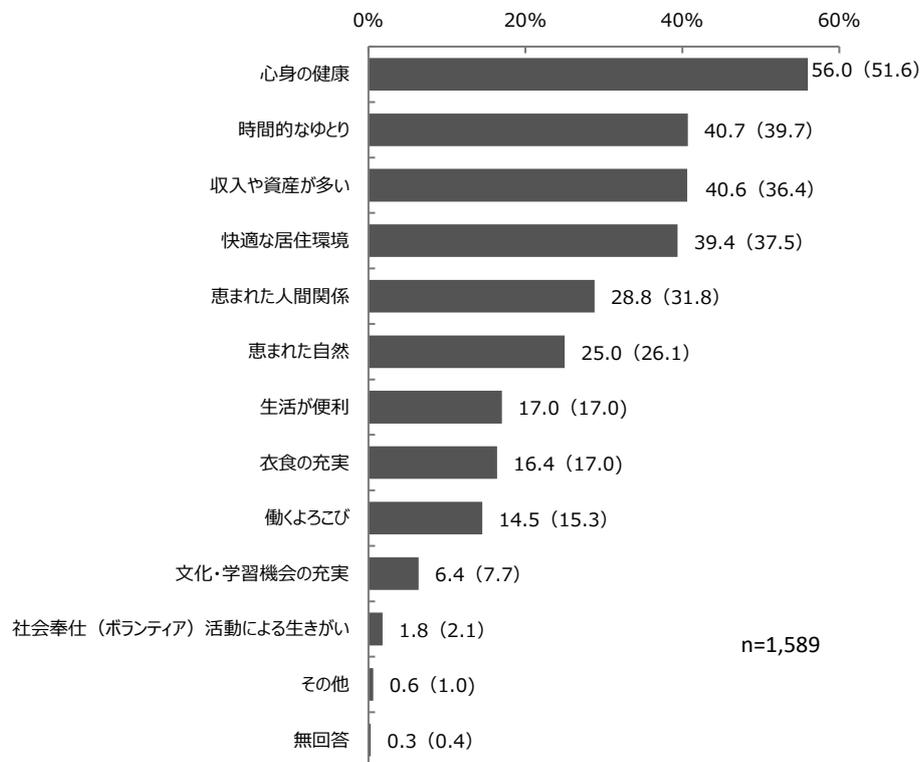
山梨県のよくないところについては、「市街地に活気がない」（55.2%）の回答率が最も高く、以下「魅力ある雇用の場が少ない」（48.0%）、「通勤・通学に不便」（36.6%）、「買い物に不便」（26.9%）、「道路・公園・下水道の整備が遅れている」（19.1%）と続いている。

「山梨県のよくないところ」として、「市街地に活気がない」や「魅力ある雇用の場が少ない」は、微減傾向であるものの依然として5割程度の高い回答率となっており、県民が未充足（不満）を感じ続けていることが確認できる。

これらに加えて、「18～19歳」「20代」「学生」では、「通勤・通学に不便」「買い物に不便」など、日常生活に密接に関係した項目に対する回答率が比較的高くなっている。

(3) 「豊かさ」のイメージ

問5 あなたにとって「豊かさ」とは何ですか。あなたのイメージに近いものを次の中から3つまで選んでください。



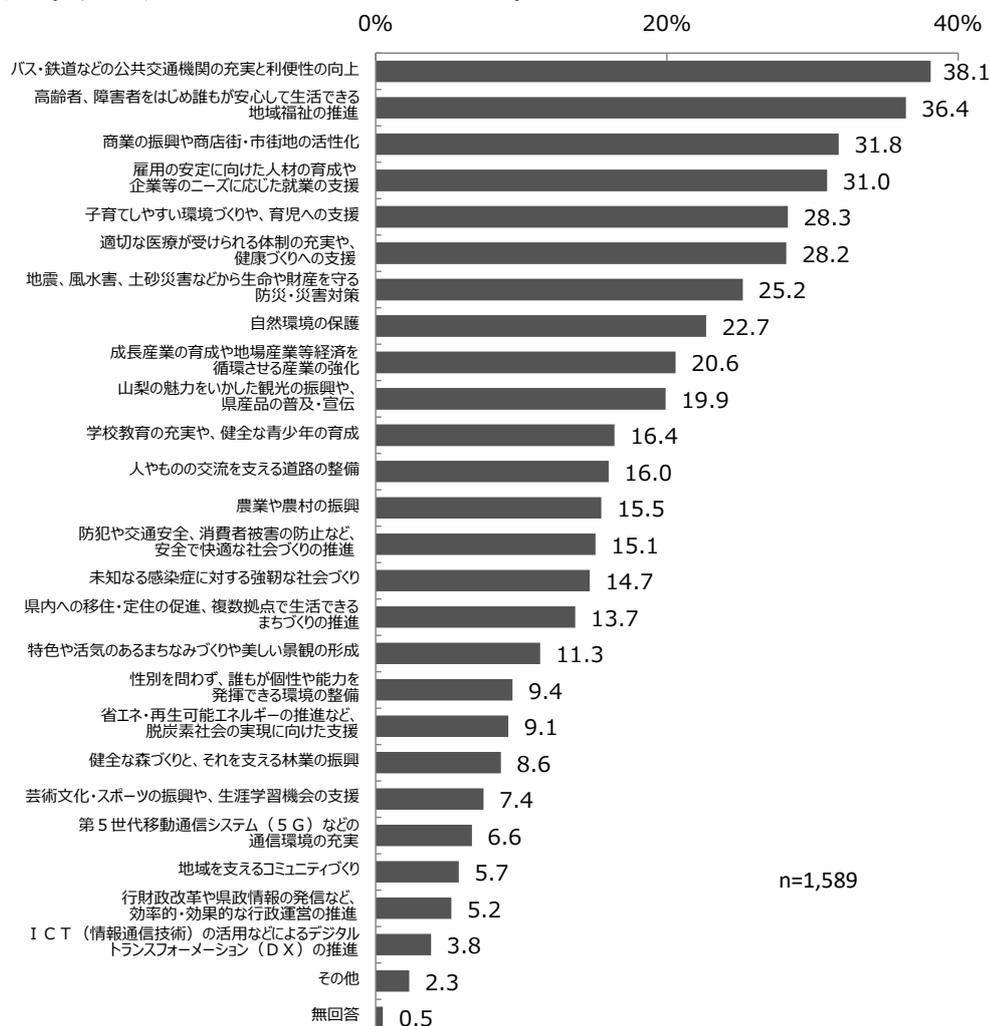
※図表（ ）内は前回（平成 29 年度）調査時の数値

豊かさのイメージについては、「心身の健康」（56.0%）の回答率が最も高く、以下「時間的なゆとり」（40.7%）、「収入や資産が多い」（40.6%）、「快適な居住環境」（39.4%）、「恵まれた人間関係」（28.8%）と続いている。

全体1位～4位項目である「心身の健康」、「時間的なゆとり」、「収入や資産が多い」、「快適な居住環境」は、前回から軒並み回答率が上がっている。また、その中でも「18歳～19歳」～「30代」においては、「収入や資産が多い」が1位、「40代」以上は「心身の健康」が1位と、年代によって、「豊かさ」のイメージが顕著に変わる結果となっている。

2 行政の施策についての要望

問6 あなたが行政に対してもっとも力を入れてほしいと思う施策はどのようなことですか。次の中から5つまで選んでください。



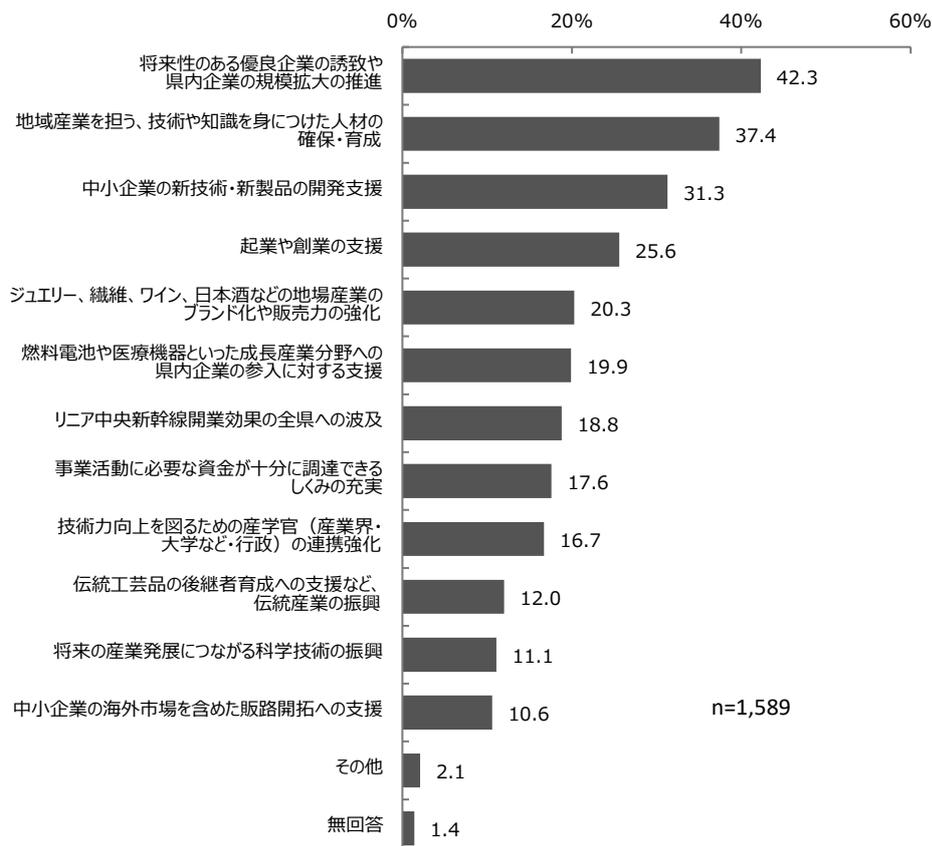
最も力を入れてほしい行政施策については、「バス・鉄道などの公共交通機関の充実と利便性の向上」（38.1%）の回答率が最も高く、以下「高齢者、障害者をはじめ誰もが安心して生活できる地域福祉の推進」（36.4%）、「商業の振興や商店街・市街地の活性化」（31.8%）、「雇用の安定に向けた人材の育成や企業等のニーズに応じた就業の支援」（31.0%）、「子育てしやすい環境づくりや、育児への支援」（28.3%）と続いている。

県民満足度における「居住環境領域」（P 8 参照）で、過去調査を含めて一貫して大きなマイナスとなっている「公共交通機関」に関する項目が、本問にて行政施策の要望として前回同様1位である。また、全体3位項目「商業の振興や商店街・市街地の活性化」、7位項目「地震、風水害、土砂災害などから生命や財産を守る防災・災害対策」、8位「自然環境の保護」は、前回より回答率が著しく増えており、4年間で県民ニーズが移り変わっていることが分かる結果となっている。

3 総合計画を推進する上での主要な課題や施策についての関心・要望

(1) 地域産業の振興

問7 経済の活力を高め、豊かな県民生活を維持するためには、競争力のある地域産業の振興が必要とされています。山梨の産業の成長・発展のため、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

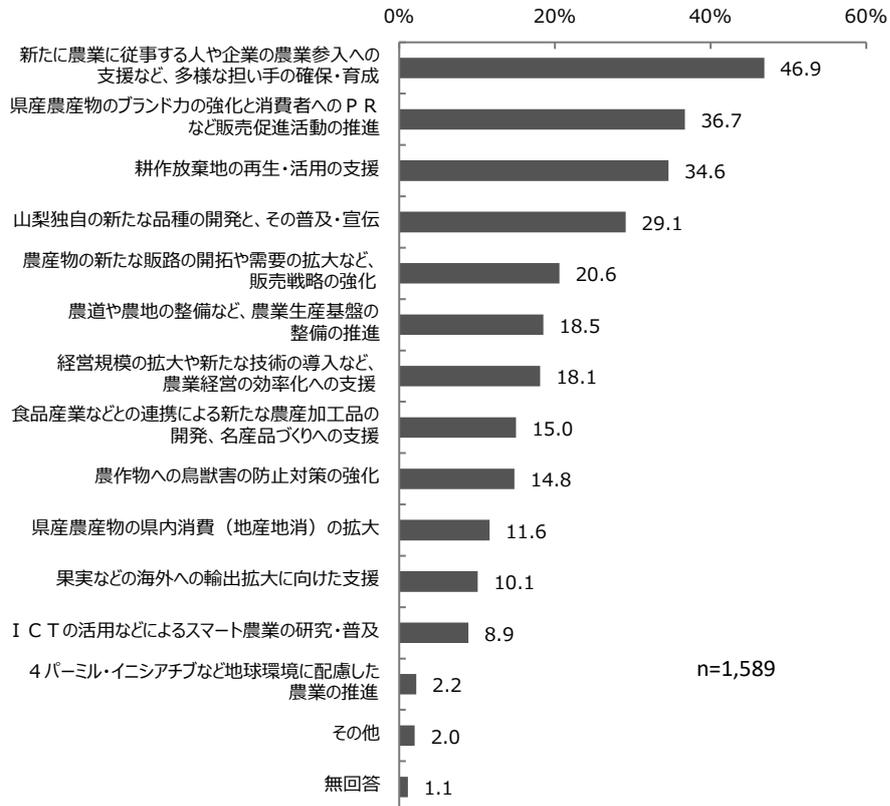


地域産業の振興に関し行政に求めることについては、「将来性のある優良企業の誘致や県内企業の規模拡大の推進」(42.3%)の回答率が最も高く、以下「地域産業を担う、技術や知識を身につけた人材の確保・育成」(37.4%)、「中小企業の新技術・新製品の開発支援」(31.3%)、「起業や創業の支援」(25.6%)、「ジュエリー、繊維、ワイン、日本酒などの地場産業のブランド化や販売力の強化」(20.3%)と続いている。

企業誘致や県内企業の規模拡大の推進が最も大きい割合を占めたことから、地域経済の活性化や雇用の拡大に向けて、既存企業の誘致や規模拡大が最も有効な産業振興施策として県民が大きな期待を寄せているとともに、産業を支える「ひと」の確保・育成や、県内に根ざす中小企業の技術開発力の向上も重要な課題として認識されており、さらに起業や創業支援などスタートアップにおける支援についても、若い年齢層や商工・サービス業を中心とした県民から推進すべき項目として関心を集めている。

(2) 農業の振興

問8 農業は、食料生産のほか、農村景観の形成、災害の防止など、生活にさまざまな恵みをもたらしています。山梨の農業を今後さらに発展させていくため、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



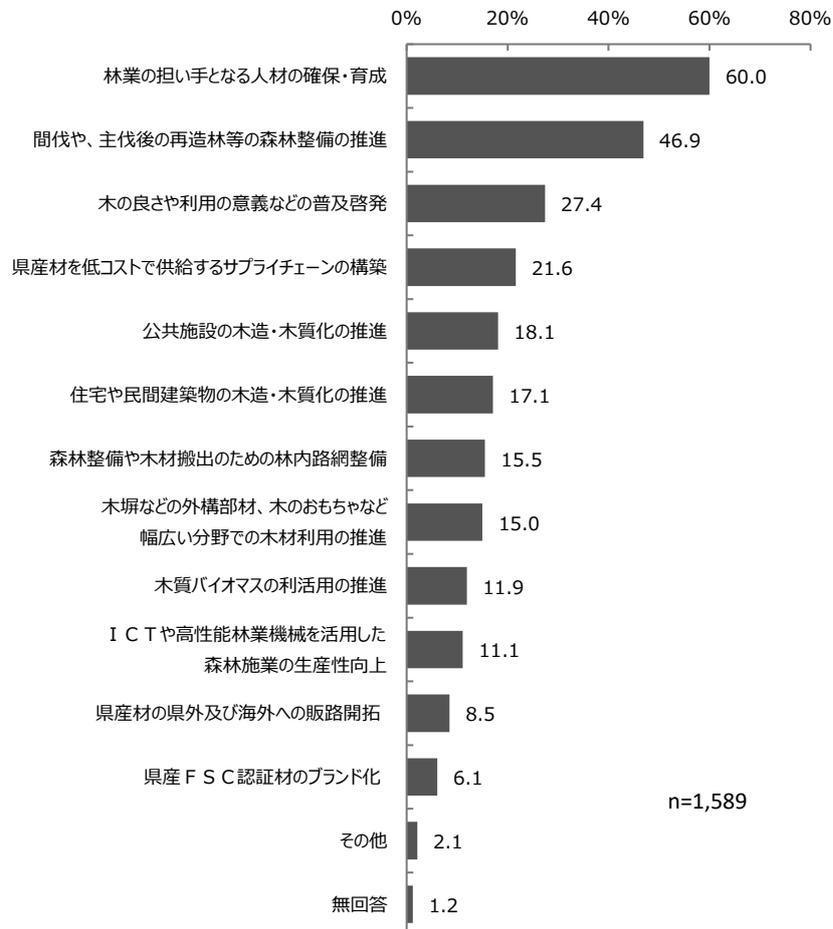
農業の振興のために行政に求めることについては、「新たに農業に従事する人や企業の農業参入への支援など、多様な担い手の確保・育成」（46.9%）の回答率が最も高く、以下「県産農産物のブランド力の強化と消費者へのPRなど販売促進活動の推進」（36.7%）、「耕作放棄地の再生・活用の支援」（34.6%）、「山梨独自の新たな品種の開発と、その普及・宣伝」（29.1%）と続いている。

今後の本県農業の振興にあたっては、これまでの調査結果と同様に、個人・企業を問わず農業への新規参入者の確保・育成が最も重要との認識が示されている。

また、県産農産物のブランド力の強化や販路開拓などの消費喚起につながる取り組みや、新品種の開発・普及などにより農産物の高付加価値化を進め、生産者の所得向上を図り、農業をより魅力的な産業としていく取り組みも重視されている。なお、耕作放棄地の再生や活用も依然として課題とされ、農業生産基盤の整備についても継続的に回答率が上昇していることから、農用地を有効活用していくことの重要性が増してきていると考えられる。

(3) 林業の振興

問9 山梨は県土面積の78%を森林が占めており、林業及び木材産業の振興は本県の経済活性化や豊かな県民生活の実現につながります。山梨の林業を振興していくために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



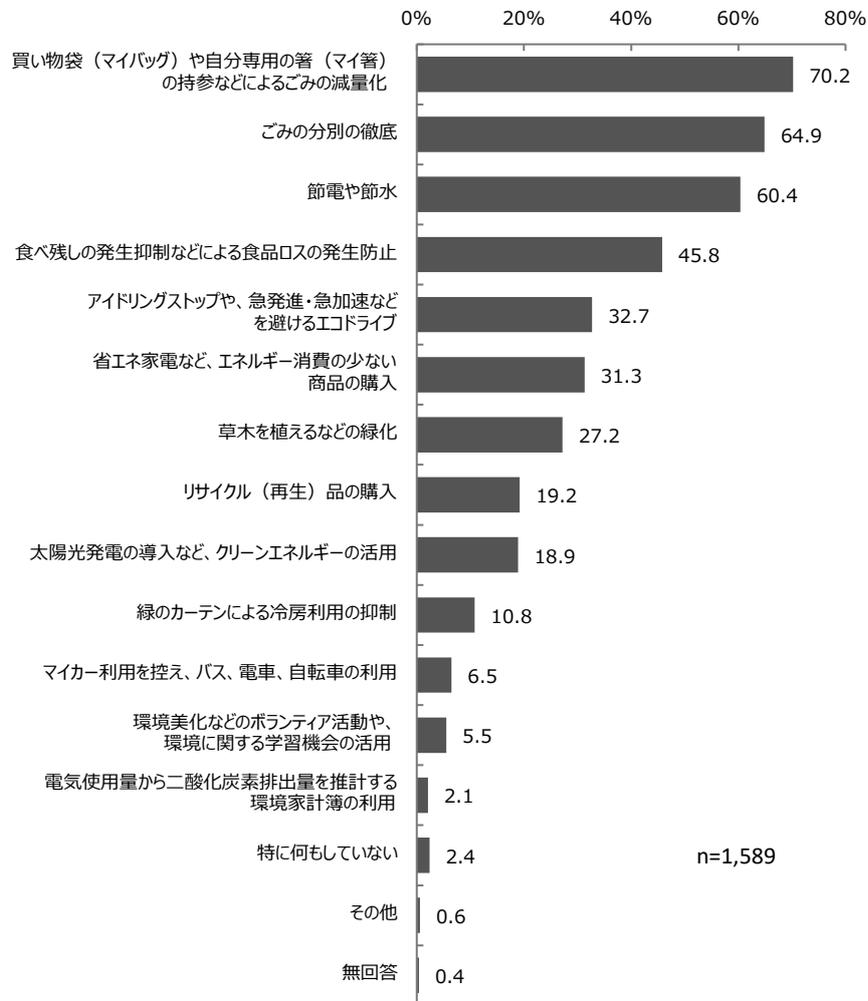
※令和3年度に設問新設

林業の振興のために行政に求めることについては、「林業の担い手となる人材の確保・育成」(60.0%)の回答率が最も高く、以下「間伐や、主伐後の再造林等の森林整備の推進」(46.9%)、「木の良さや利用の意義などの普及啓発」(27.4%)、「県産材を低コストで供給するサプライチェーンの構築」(21.6%)と続いている。

今後の本県林業の振興にあたっては、属性別の各内訳において概ね属性1位項目である担い手の確保・育成、次に概ね属性2位項目である間伐や主伐後の再造林等の森林整備が重要との認識が明らかになった。また、当事者である農林業従事者はサプライチェーンの構築を重視するなど、担い手や林業基盤整備だけでなく、供給に対する仕組みづくりの取り組みも求めている。

(4) 環境の保全（日常生活において心がけていること）

問10 環境を守るため、あなたは日常生活においてどのようなことを心がけていますか。次の中から選んでください。（該当するものはすべて選択）

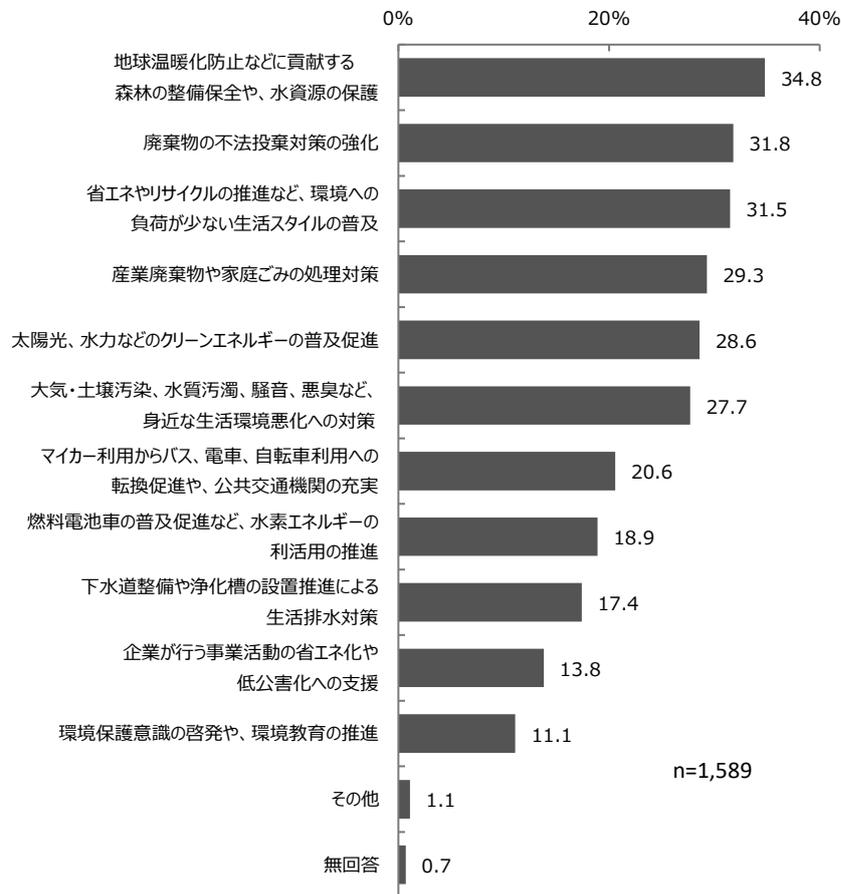


環境の保全に関する日常の心がけについては、「買い物袋（マイバッグ）や自分専用の箸（マイ箸）の持参などによるごみの減量化」（70.2%）の回答率が最も高く、以下「ごみの分別の徹底」（64.9%）、「節電や節水」（60.4%）、「食べ残しの発生抑制などによる食品ロスの発生防止」（45.8%）、「アイドリングストップや、急発進・急加速などを避けるエコドライブ」（32.7%）と続いている。

2020年7月のレジ袋有料化等に伴い、マイバック持参などにおける心がけが定着している。県民満足度得点における「居住環境領域」（P8参照）の「自然環境」、「大気汚染等」、「ごみ・生活排水」、「余暇領域」（P10参照）の「自然と親しむ機会」における満足度得点の高さも含め、環境保全に関する県民意識の高さがうかがえる。

(5) 環境の保全（行政に求めること）

問11 環境を守るため、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



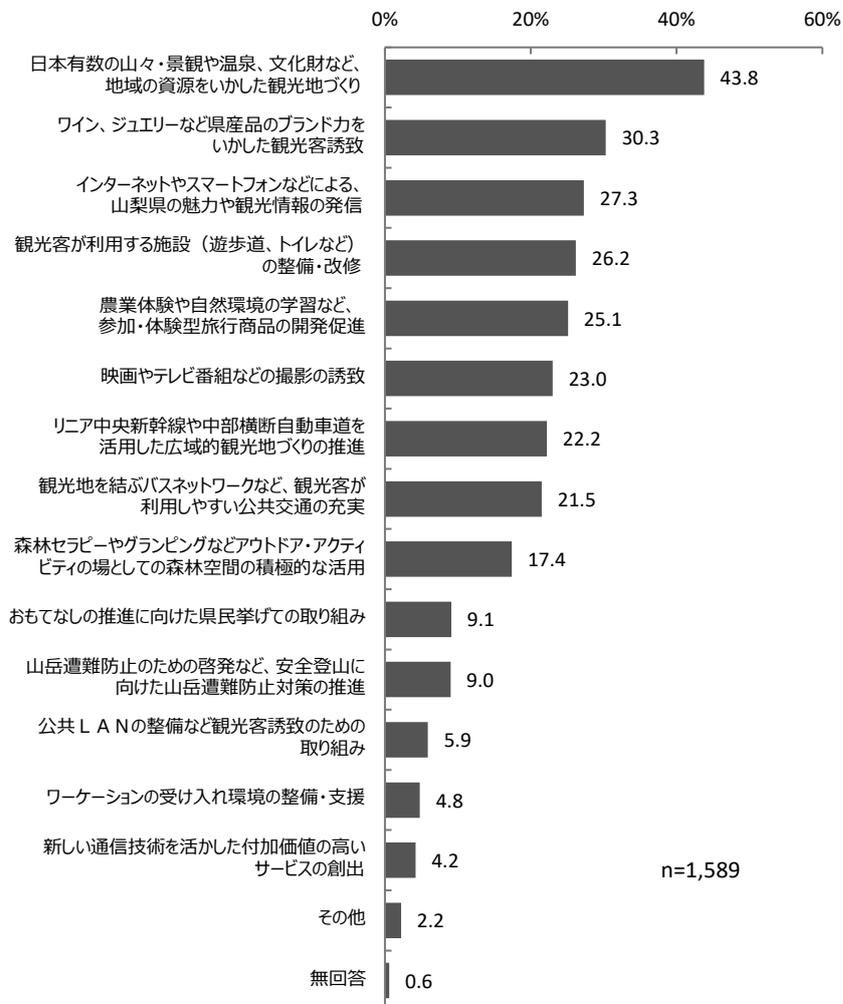
環境の保全に関して行政に求めることについては、「地球温暖化防止などに貢献する森林の整備保全や、水資源の保護」(34.8%)の回答率が最も高く、以下「廃棄物の不法投棄対策の強化」(31.8%)、「省エネやリサイクルの推進など、環境への負荷が少ない生活スタイルの普及」(31.5%)、「産業廃棄物や家庭ごみの処理対策」(29.3%)と続いている。

「廃棄物の不法投棄対策の強化」、「産業廃棄物や家庭ごみの処理対策」、「大気・土壌汚染、水質汚濁、騒音、悪臭など、身近な生活環境悪化への対策」の回答率が上がっており、日常の生活環境への要望が高まっている。

県民満足度得点における「居住環境領域」(P8参照)の「自然環境」での高得点や、「山梨県のよいところ」(P15参照)における「自然環境」の全体1位となる回答率の高さから、県民が本県の自然環境に対して満足していることがうかがえるが、本問における回答でも森林の整備保全や水資源の保護に対する要望が大きく、将来にわたって本県自然の魅力が維持されることに関心が高いことが分かる。

(6) 観光の振興

問12 観光の振興は、経済の活性化のほか、にぎわいや交流を通じて地域の活力向上や心の豊かさにもつながります。山梨の観光を振興していくために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

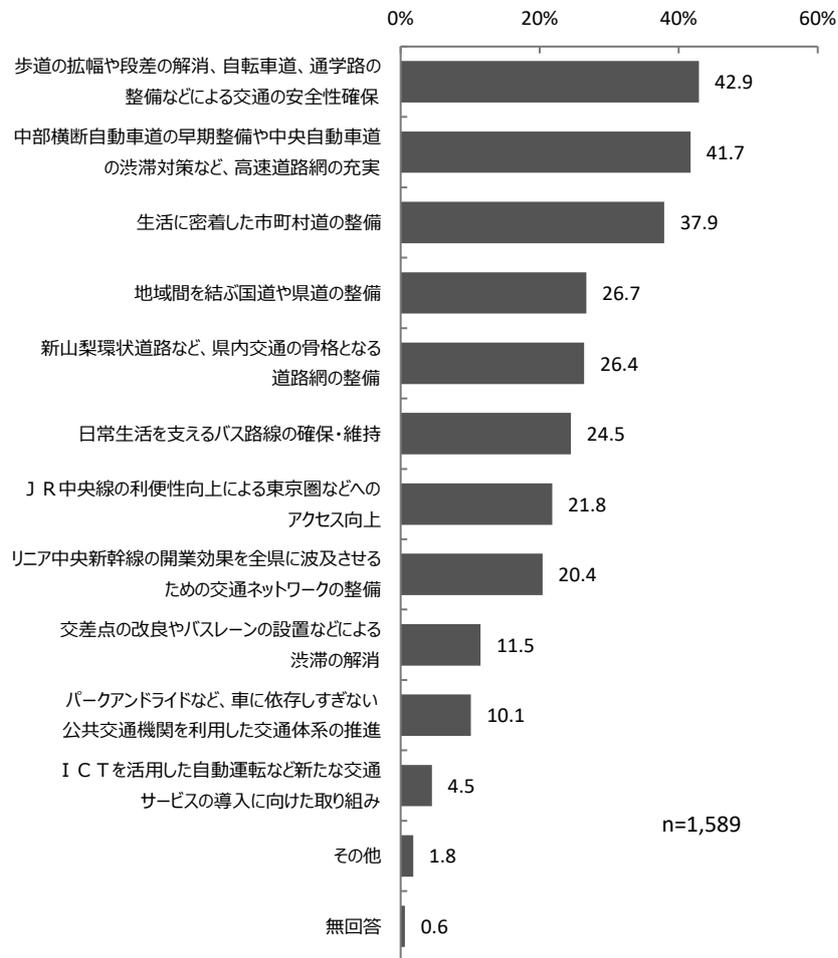


観光の振興のために必要なことについては、「日本有数の山々・景観や温泉、文化財など、地域の資源をいかした観光地づくり」（43.8%）の回答率が最も高く、以下「ワイン、ジュエリーなど県産品のブランド力をいかした観光客誘致」（30.3%）、「インターネットやスマートフォンなどによる、山梨県の魅力や観光情報の発信」（27.3%）と続いている。

地域資源や県産品のブランド力をいかした独自性のある観光地づくりの必要性が強く認識されるとともに、こうした資源の魅力の情報発信や観光客の満足度を高める観光施設などの利便性・快適性の向上、参加・体験型旅行商品による観光メニューの充実などへの関心が高い。

(7) 交通政策

問13 地域の経済の活性化や安全で豊かな生活のために、どのような交通施策の充実が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

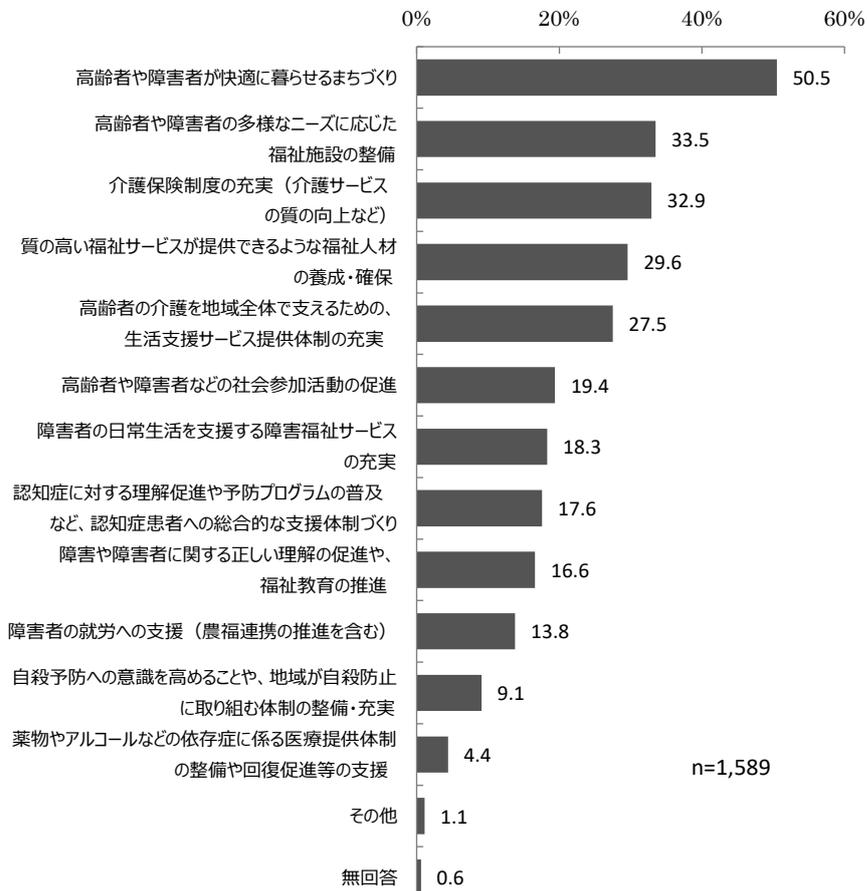


充実が必要と考える交通施策では、「歩道の拡幅や段差の解消、自転車道、通学路の整備などによる交通の安全性確保」(42.9%)の回答率が最も高く、以下「中部横断自動車道の早期整備や中央自動車道の渋滞対策など、高速道路網の充実」(41.7%)、「生活に密着した市町村道の整備」(37.9%)と続いている。

交通施策に関しては、各属性において回答傾向の違いが確認でき、生活に身近な道路や交通手段の安全・安心、利便性の向上を重視する層と、県内外を結ぶ広域的な交通体系の整備を重視する層に分かれている。それぞれの生活形態や居住環境に応じて関心が異なることがうかがえる。

(8) 地域福祉

問14 高齢者や障害者をはじめ誰もが安心して暮らせる地域福祉の推進に向けて、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

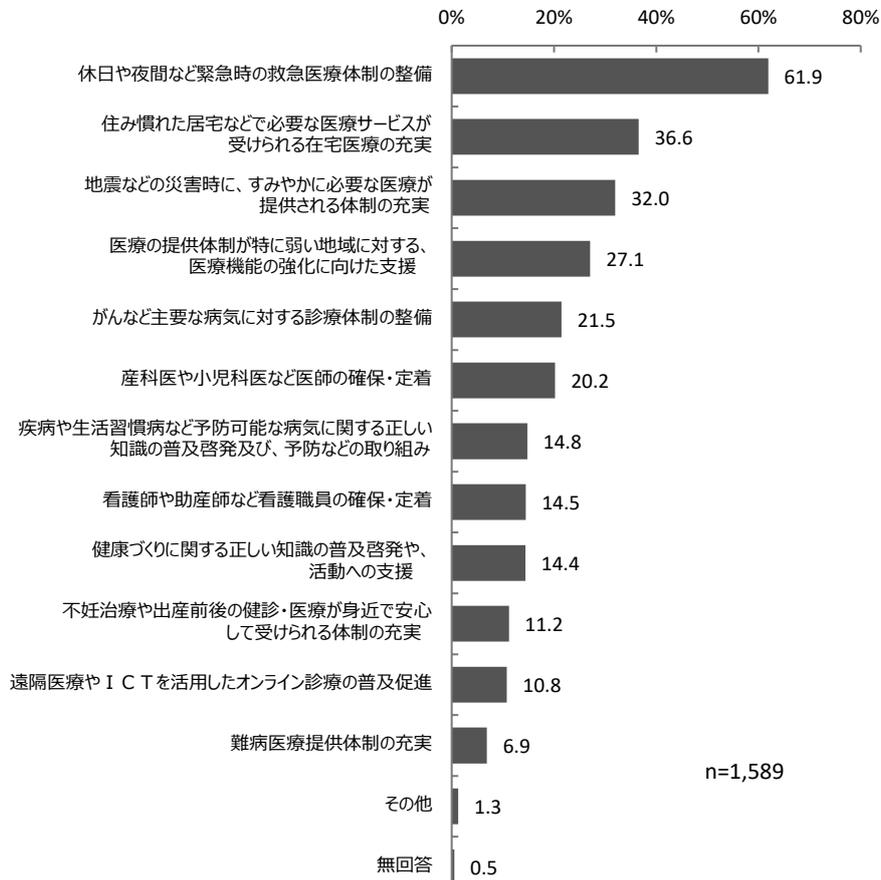


高齢者や障害者をはじめ誰もが安心して暮らせる地域福祉の推進に関し、行政に求めることについては、「高齢者や障害者が快適に暮らせるまちづくり」（50.5%）の回答率が最も高く、以下「高齢者や障害者の多様なニーズに応じた福祉施設の整備」（33.5%）、「介護保険制度の充実（介護サービスの質の向上など）」（32.9%）、「質の高い福祉サービスが提供できるような福祉人材の養成・確保」（29.6%）、「高齢者の介護を地域全体で支えるための、生活支援サービス提供体制の充実」（27.5%）と続いている。

高齢者や障害者など配慮が必要な人でも快適に生活できる社会の実現に高い関心を示している。また、高齢化による家庭での介護負担が増大していることに伴い、地域全体で高齢者を支える「介護の社会化」への関心は依然として高いことがうかがえる。

(9) 保健医療

問15 日ごろからの健康づくりや、病気やけがなどの時に必要な医療を受けられる環境づくりのために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



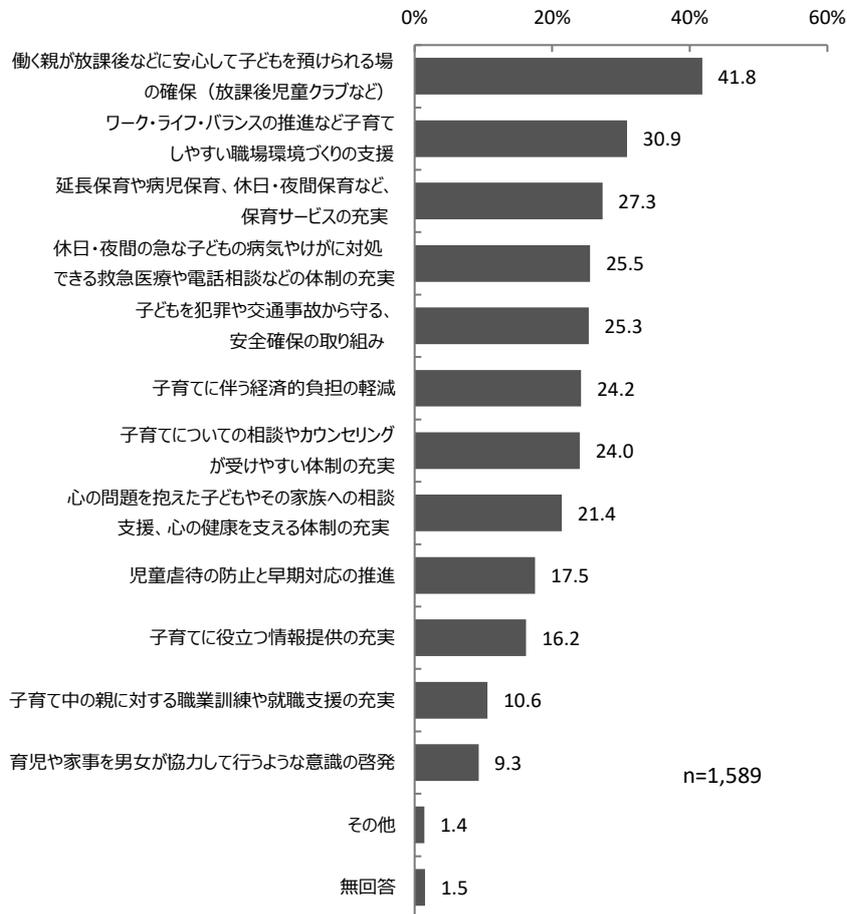
健康づくりや医療体制の整備に関し行政に求めることについては、「休日や夜間など緊急時の救急医療体制の整備」(61.9%)の回答率が最も高く、以下「住み慣れた居宅などで必要な医療サービスが受けられる在宅医療の充実」(36.6%)、「地震などの災害時に、すみやかに必要な医療が提供される体制の充実」(32.0%)、「医療の提供体制が特に弱い地域に対する、医療機能の強化に向けた支援」(27.1%)と続いている。

健康づくりや医療体制の整備にあたっては、前回に引き続き緊急時や災害時における医療体制の整備が重要との認識が示されている。また、患者のニーズや意向に応じて住み慣れた居宅などで医療サービスが受けられる在宅医療についても、安心して自分らしく生活できる社会の実現に向けて県民の関心が高まっている。

なお、医療提供体制の弱い地域における医療機能の強化に対する関心も高まっている。

(10) 子育て支援

問16 安心して子育てができる環境づくりのために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

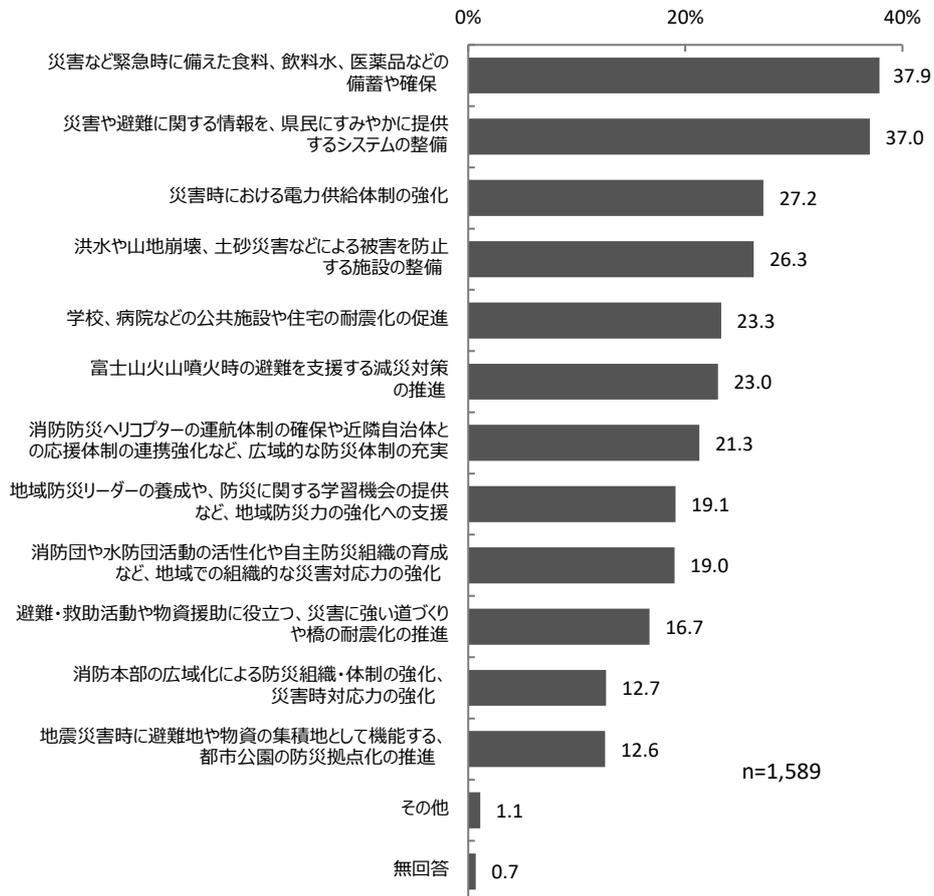


安心して子育てができる環境づくりのため行政に求めることについては、「働く親が放課後などに安心して子どもを預けられる場の確保 (放課後児童クラブなど)」(41.8%) の回答率が最も高く、以下「ワーク・ライフ・バランスの推進など子育てしやすい職場環境づくりの支援」(30.9%)、「延長保育や病児保育、休日・夜間保育など、保育サービスの充実」(27.3%)、「休日・夜間の急な子どもの病気やけがに対処できる救急医療や電話相談などの体制の充実」(25.5%) と続いている。

働く親をサポートするための子どもの預かり場所の確保については、引き続き高い関心が示されている。特に子育てに直面する層では、ワーク・ライフ・バランスなど子育てと仕事の両立への支援や経済的負担の軽減についても高い関心が示されている。一方で、子どもの安全確保や心の問題を抱えた子どもへの支援といった心身における健康への対策、子育てを行う父母への相談支援など、子どもを安心して育てるためのサポートへの関心が高まっている。

(11) 防災・災害対策

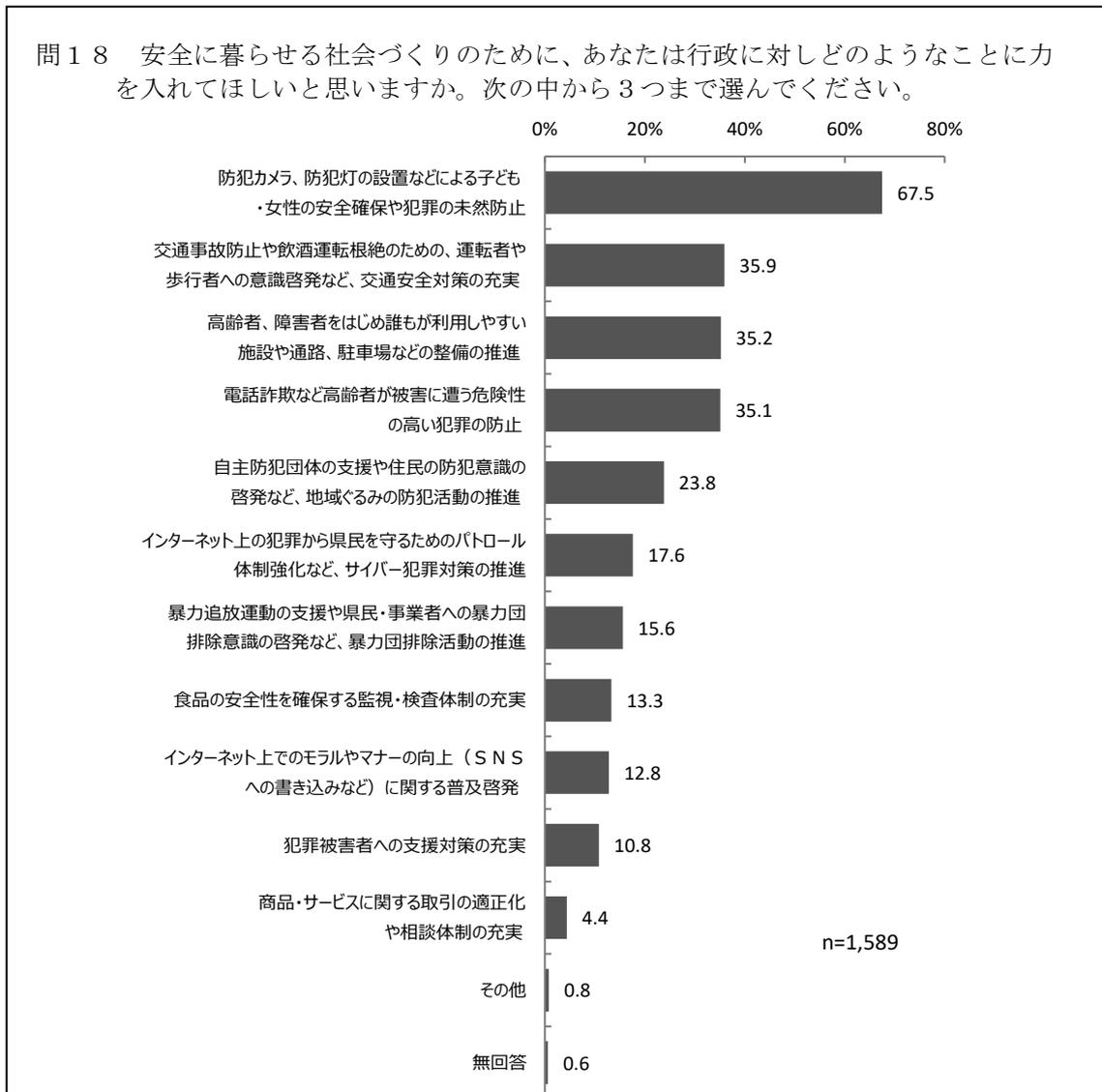
問17 大規模自然災害への対策として、地域の防災力の強化や災害に強い県土づくりを進めていくことが重要な課題となっています。県民の安全を守るために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



災害から県民の安全を守るため行政に求めることについては、「災害など緊急時に備えた食料、飲料水、医薬品などの備蓄や確保」(37.9%)の回答率が最も高く、以下「災害や避難に関する情報を、県民にすみやかに提供するシステムの整備」(37.0%)、「災害時における電力供給体制の強化」(27.2%)、「洪水や山地崩壊、土砂災害などによる被害を防止する施設の整備」(26.3%)と続いている。

日本全国で災害が頻発していることから、災害時の備蓄や災害情報に対して引き続き高い関心が示されている。また、近年は地震や台風、雷、倒木などの災害により県内各地で広範囲もしくは長期間の停電を余儀なくされた地域が発生したため、災害時における電力供給体制の強化に関心が高いことも確認できる。なお、峡南地域では、洪水や土砂災害などの被害を防止する施設の整備に対するニーズが高く、富士・東部地域では富士山の火山噴火に対する関心が高いなど、地域による関心の違いがみられる。

(12) 安全な社会づくり



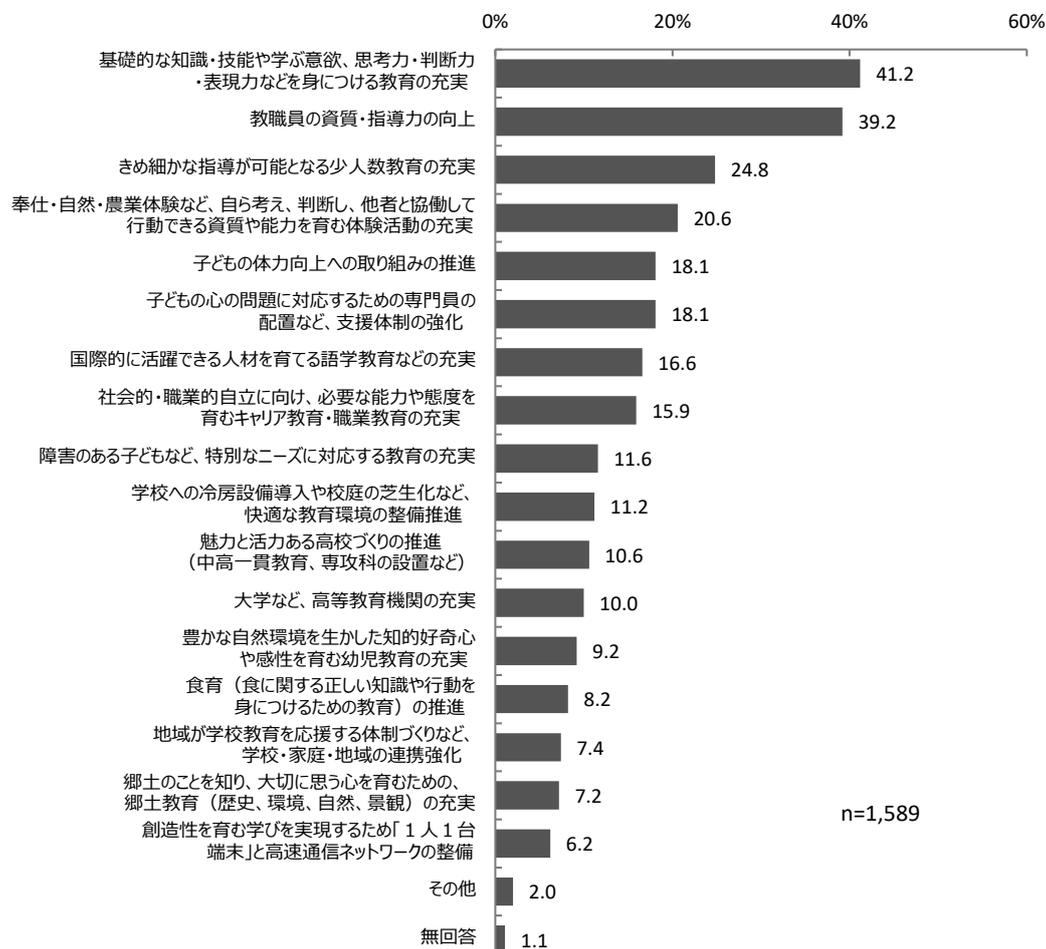
安全な社会づくりのため行政に求めることについては、「防犯カメラ、防犯灯の設置などによる子ども・女性の安全確保や犯罪の未然防止」(67.5%)の回答率が最も高く、以下「交通事故防止や飲酒運転根絶のための、運転者や歩行者への意識啓発など、交通安全対策の充実」(35.9%)、「高齢者、障害者をはじめ誰もが利用しやすい施設や通路、駐車場などの整備の推進」(35.2%)、「電話詐欺など高齢者が被害に遭う危険性の高い犯罪の防止」(35.1%)と続いている。

安全な社会づくりについては、子どもや女性などが犯罪に巻き込まれることを防ぐための対策について県民の関心が非常に高いことがうかがえる。また、交通事故の防止についても引き続き高い関心が確認できる。

なお、本県においても電話詐欺の被害が依然として高い水準で発生しており、その対応について高い関心が示されている。

(13) 学校教育

問19 学校教育に関して、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



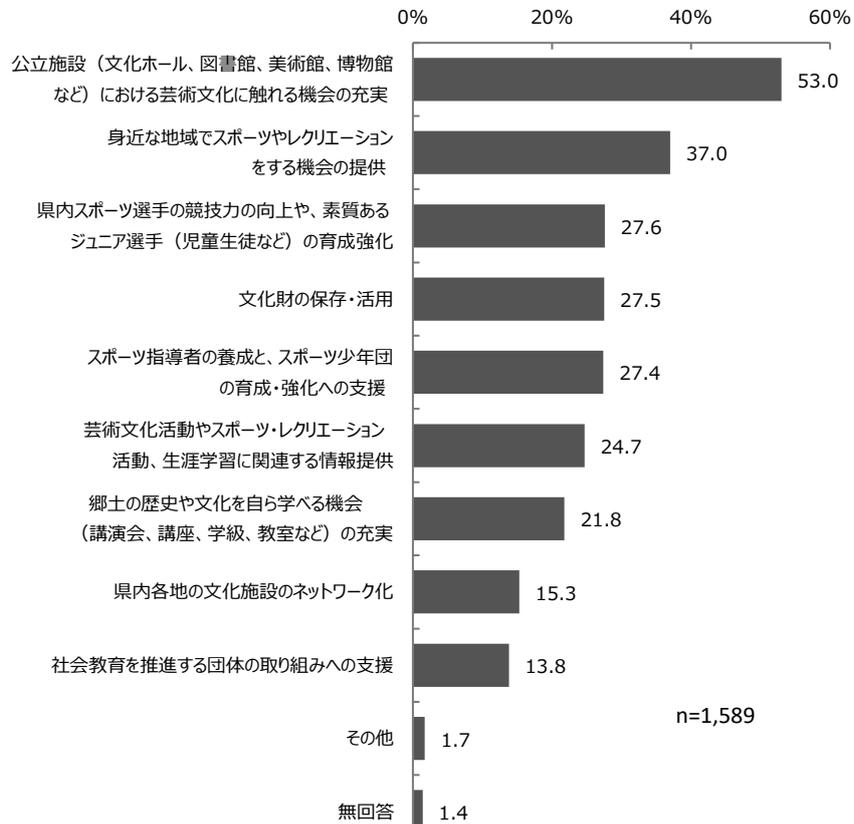
学校教育に関し行政に求めることについては、「基礎的な知識・技能や学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力などを身につける教育の充実」(41.2%)の回答率が最も高く、以下「教職員の資質・指導力の向上」(39.2%)、「きめ細かな指導が可能となる少人数教育の充実」(24.8%)、「奉仕・自然・農業体験など、自ら考え、判断し、他者と協働して行動できる資質や能力を育む体験活動の充実」(20.6%)と続いている。

全体的に、基礎的な知識に加えて、学習意欲や思考力・判断力・表現力など、基本的な学力を身につけさせる教育内容の充実を望む意見は多く、また教育の質の向上のための、教育現場において指導的立場にある教職員の資質・指導力向上やきめ細かな指導を可能とする少人数教育の充実に対しても関心が高い。

一方、コロナ禍による影響から、子どもの体力向上に関する取り組みや、子どもの心の問題への対応についても関心が高まっている。

(14) 文化・スポーツ・生涯学習

問20 芸術文化活動やスポーツ・レクリエーション活動、生涯学習について、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

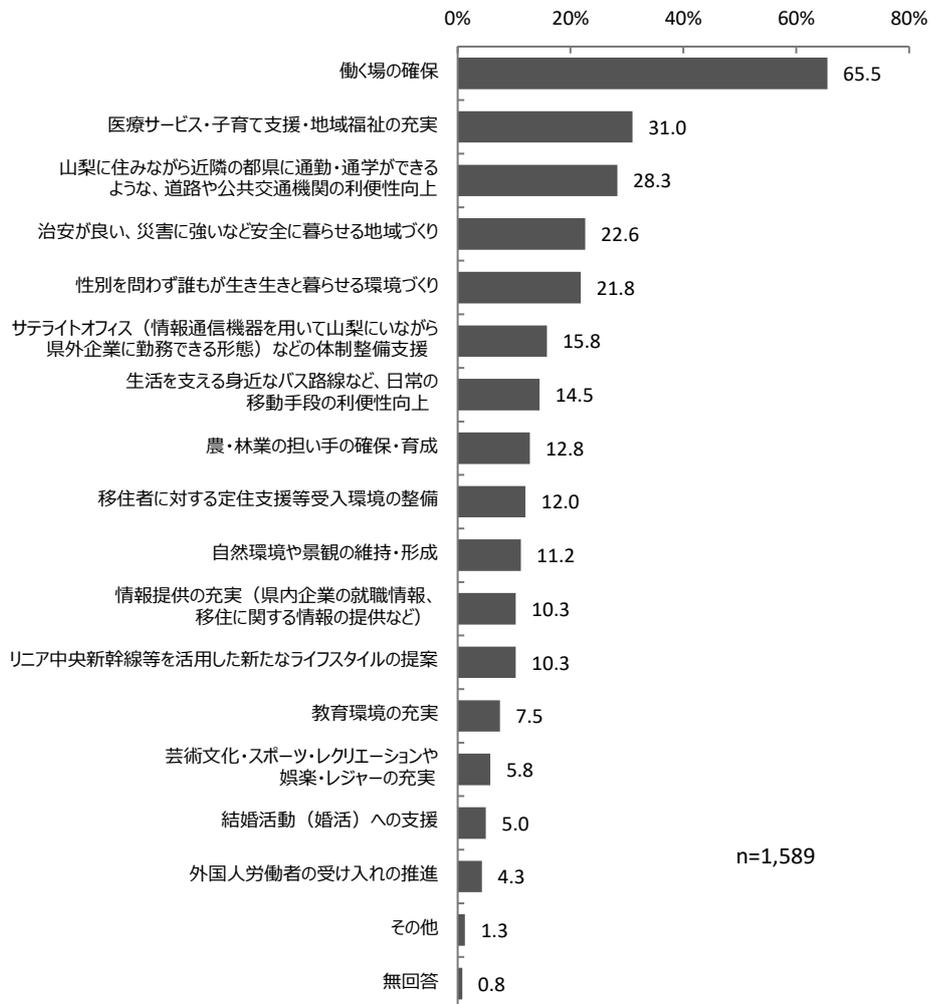


芸術文化活動やスポーツ・レクリエーション活動、生涯学習に関し行政に求めることについては、「公立施設（文化ホール、図書館、美術館、博物館など）における芸術文化に触れる機会の充実」（53.0%）の回答率が最も高く、以下「身近な地域でスポーツやレクリエーションをする機会の提供」（37.0%）、「県内スポーツ選手の競技力の向上や、素質あるジュニア選手（児童生徒など）の育成強化」（27.6%）、「文化財の保存・活用」（27.5%）と続いている。

「公立施設（文化ホール、図書館、美術館、博物館など）における芸術文化に触れる機会の充実」及び「身近な地域でスポーツやレクリエーションをする機会の提供」が引き続き上位に並んだことから、イベントや講習会への参加機会の充実に対する希望が多いと考えられる。

(15) 二拠点居住・移住・定住の促進

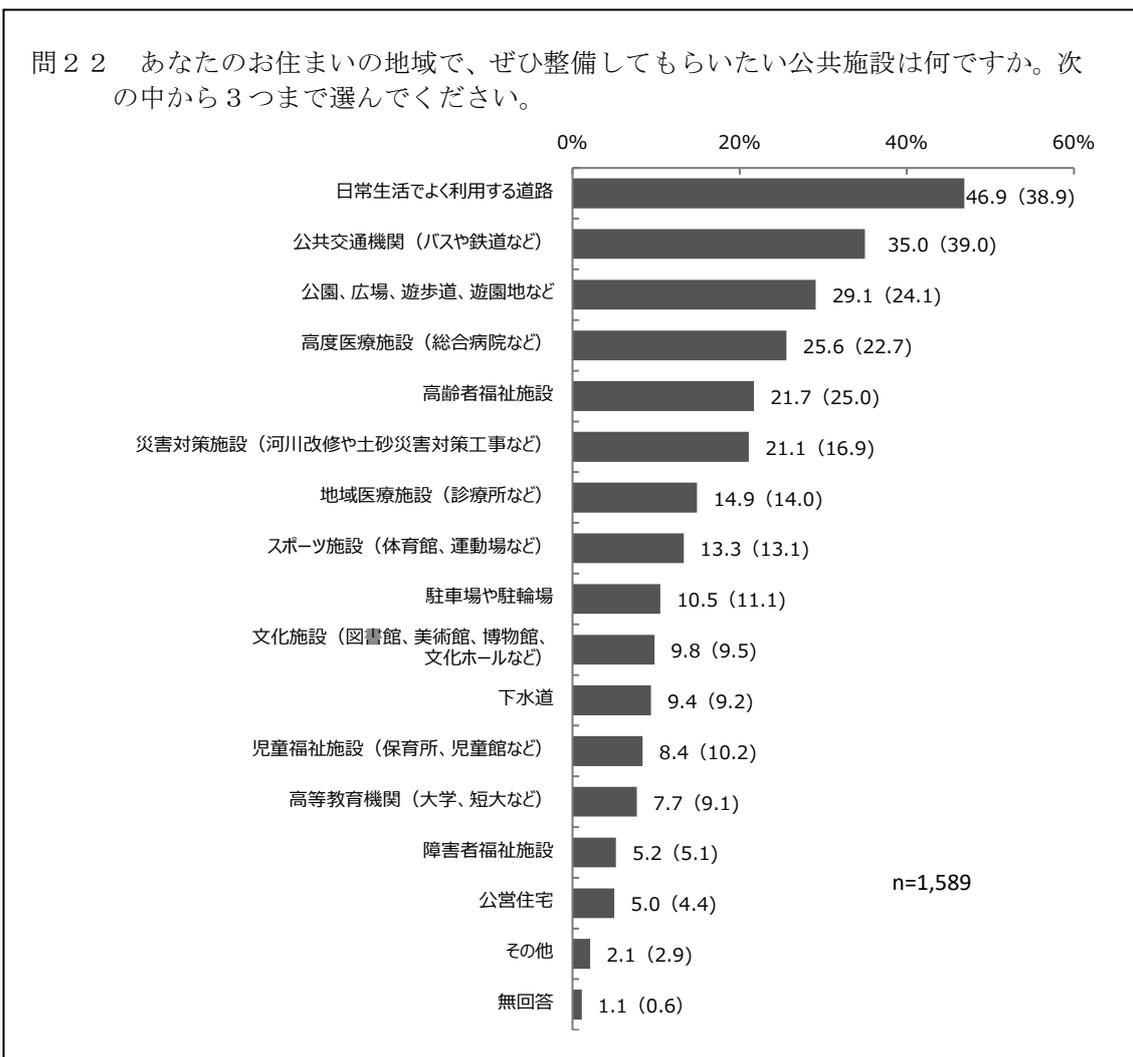
問2 1 地域社会の活力維持のためには、人口の減少傾向に歯止めをかけ、山梨に住む人々の増加・定着を図る必要があります。二拠点居住・移住・定住促進のために、あなたは今後どのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



二拠点居住・移住・定住の促進のため今後力を入れてほしいことについては、「働く場の確保」(65.5%)の回答率が最も高く、以下「医療サービス・子育て支援・地域福祉の充実」(31.0%)、「山梨に住みながら近隣の都県に通勤・通学ができるような、道路や公共交通機関の利便性向上」(28.3%)、「治安が良い、災害に強いなど安全に暮らせる地域づくり」(22.6%)と続いている。

「働く場の確保」はほぼすべての属性から非常に強い関心が寄せられ、就労機会の確保に関する施策が二地域居住・移住・定住の促進において最も重要であると県民が認識しており、その上で、地域福祉や公共交通網整備などの生活基盤の強化に関心を抱いている点は前回同様となった。

4 公共施設整備についての要望



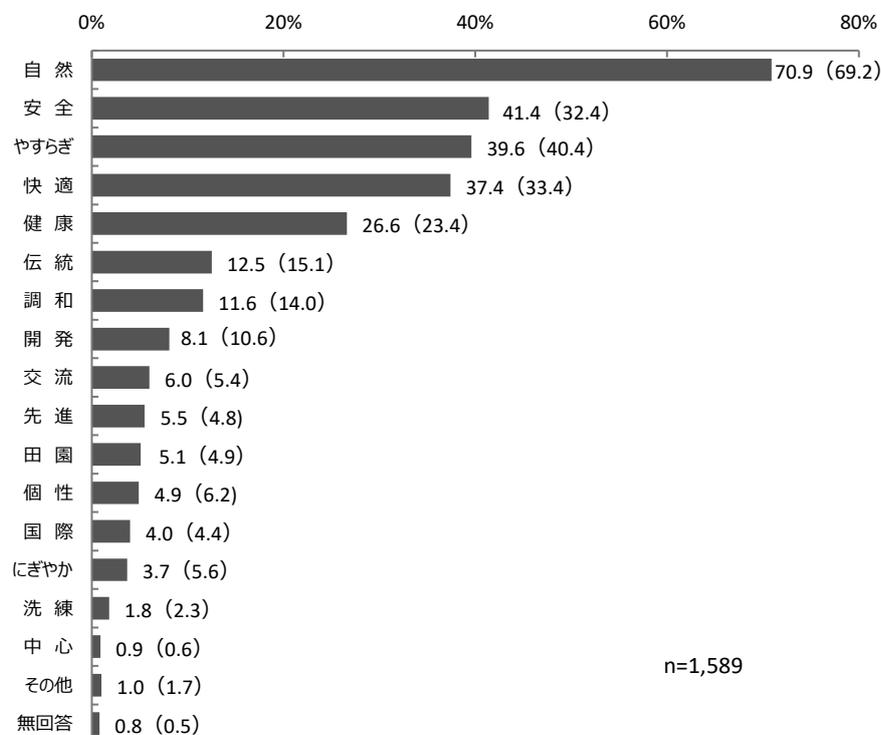
※図表（ ）内は前回（平成 29 年度）調査時の数値

居住地域において整備を希望する公共施設としては、「日常生活でよく利用する道路」（46.9%）の回答率が最も高く、以下「公共交通機関（バスや鉄道など）」（35.0%）、「公園、広場、遊歩道、遊園地など」（29.1%）、「高度医療施設（総合病院など）」（25.6%）と続いている。

地域生活に身近な公共施設として、道路や公共交通網の整備に対するニーズが依然として高いことが確認できる。特に全体 2 位項目「公共交通機関（バスや鉄道など）」は、県民満足度得点における「居住環境領域」（P 8 参照）の「公共交通機関」が過去調査を含めて一貫してマイナスとなっていることなどからも、県民が強い要望を抱いていることが改めて確認できる結果となった。

5 期待する山梨県の将来像

問23 あなたが期待する山梨県の将来像をことばで表すと、次のうちどれになりますか。あなたのイメージに近いものを次の中から3つまで選んでください。



※図表（ ）内は前回（平成29年度）調査時の数値

山梨県に期待する将来像のイメージとしては、「自然」（70.9%）の回答率が突出して高く、以下「安全」（41.4%）、「やすらぎ」（39.6%）、「快適」（37.4%）と続いている。

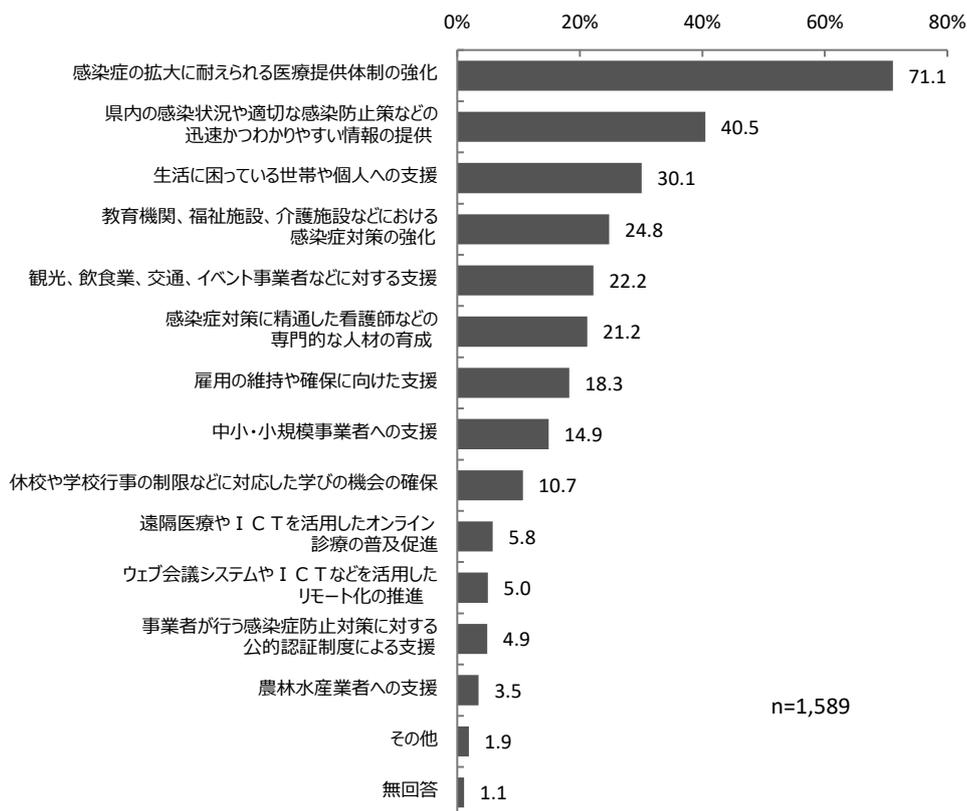
1位の「自然」は過去3回の調査においても一貫して7割程度と高い回答率となっている。本調査の間3「山梨県のよいところ」（P15参照）において「自然環境に恵まれている」が1位となったことから、本県の強みとして認知されたうえで、将来にわたって本県自然の魅力が維持・向上されることに関心が高いことが分かる。

また、2位の「安全」は前回よりも9.0ポイント高くなっており、新型コロナウイルス感染拡大や相次ぐ災害を背景に、将来像としての期待が高まっていることがうかがえる。

6 重点項目

(1) 未知なる感染症への対策

問 2 4 新型コロナウイルス感染症や未知なる感染症に対する強靱な社会づくりのために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



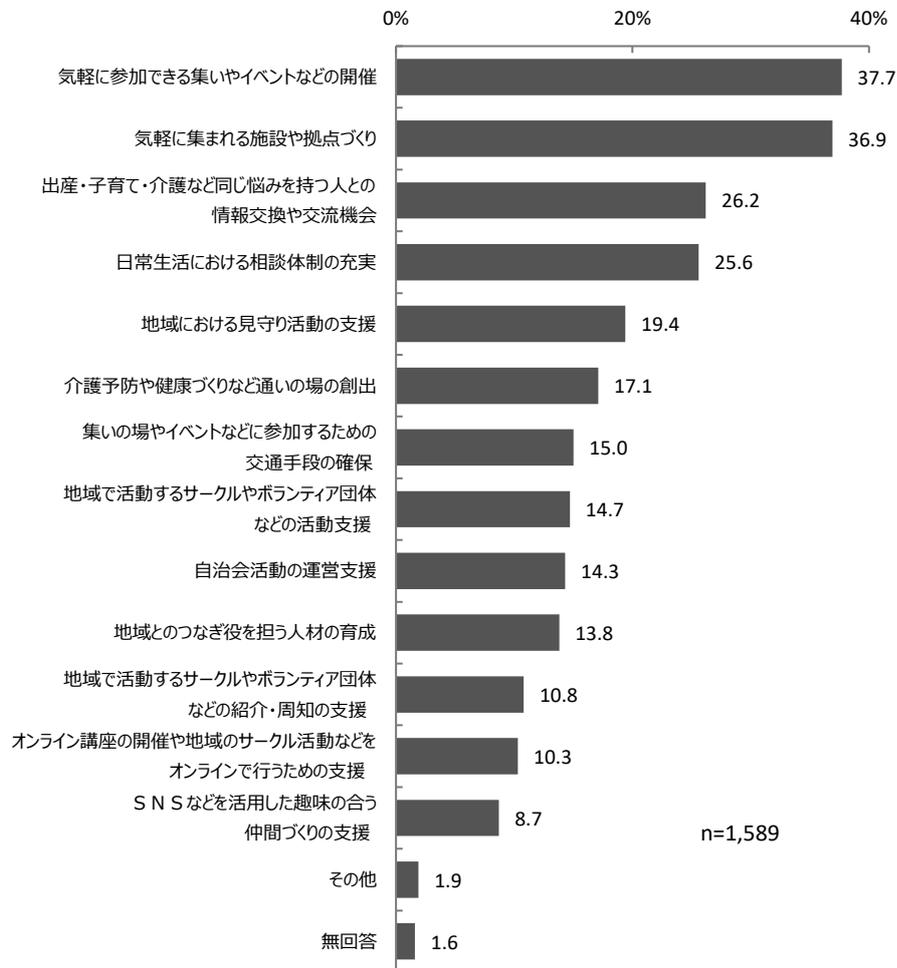
※令和3年度に設問新設

新型コロナウイルス感染症や未知なる感染症に対する強靱な社会づくりのため今後力を入れてほしいことについては、「感染症の拡大に耐えられる医療提供体制の強化」(71.1%)の回答率が最も高く、以下「県内の感染状況や適切な感染防止策などの迅速かつわかりやすい情報の提供」(40.5%)、「生活に困っている世帯や個人への支援」(30.1%)、「教育機関、福祉施設、介護施設などにおける感染症対策の強化」(24.8%)と続いている。

本問は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う対策や未知なる感染症に対応する社会を実現するため、どのような施策が重要と認識されているかを把握するために新設した。感染拡大期に行われた調査であったこともあり、医療体制の充実や正確な情報発信、施設における感染症対策の強化、専門的な人材の育成など、感染時の対応や感染拡大の防止に関する項目が重要課題として選択されたと考えられる。

(2) コミュニティづくり

問 2 5 新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの県民や団体がこれまでどおりの生活や活動ができず、コミュニティの分断や社会的孤立がみられるようになりました。社会や地域のつながりを作るために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



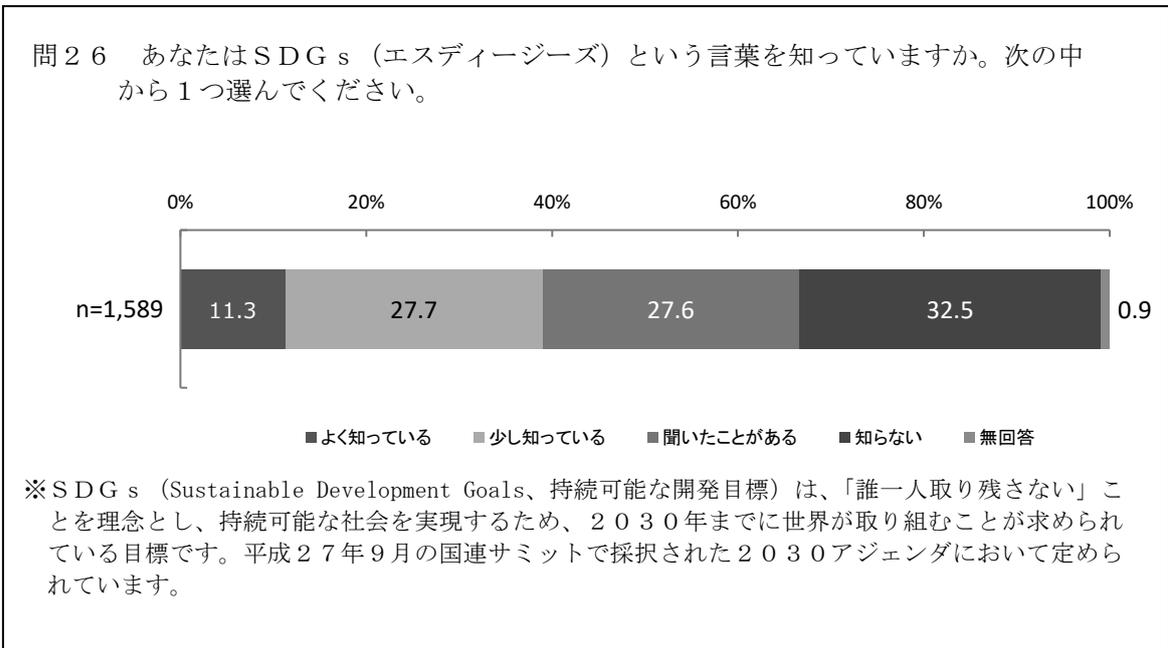
※令和3年度に設問新設

社会や地域のつながりを作るため今後力を入れてほしいことについては、「気軽に参加できる集いやイベントなどの開催」(37.7%)の回答率が最も高く、以下「気軽に集まれる施設や拠点づくり」(36.9%)、「出産・子育て・介護など同じ悩みを持つ人との情報交換や交流機会」(26.2%)、「日常生活における相談体制の充実」(25.6%)と続いている。

本問は、新型コロナウイルス感染拡大による行動自粛の動きを踏まえ、コミュニティの維持や社会的孤立防止のためにどのような施策が重要と認識されているかを把握するために新設した。いずれの属性別でも気軽に参加できる機会創出や拠点づくりを重視しているが、若年層では同じ悩みを持つ仲間との交流機会やオンラインでの仲間づくり、高年齢層では相談体制や通いの場などの日常的な支援や機会に対する関心が高い。

(3) SDGs

i 認知度



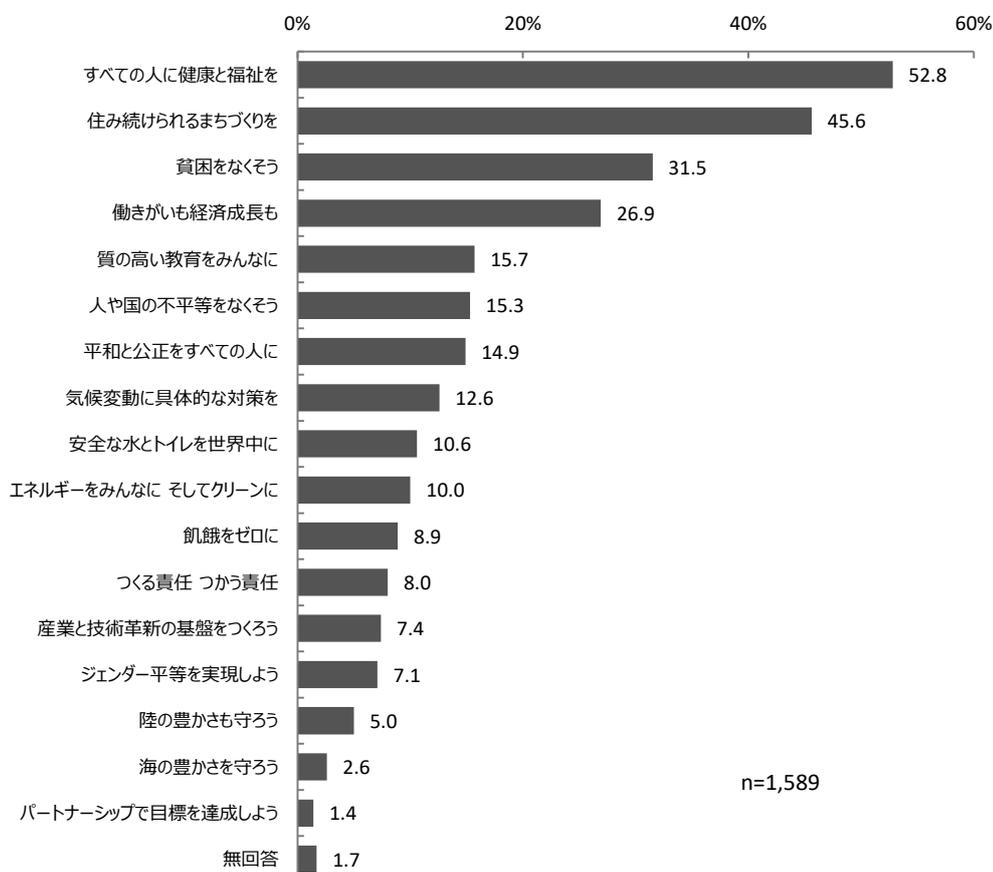
※令和3年度に設問新設

SDGsの認知度については、「よく知っている」(11.3%)と「少し知っている」(27.7%)の両方を合わせた「知っている」(以下「認知度」という。)が39.0%である。また、「聞いたことがある」(27.6%)と「知らない」(32.5%)の両方を合わせると60.1%となっている。

本問は、持続可能な社会を実現するために世界で取り組むことが求められているSDGsについて、県民にどの程度認知されているかを把握するために新設した。メディアでもよく取り上げられているため、「よく知っている」と「少し知っている」を合わせると4割に迫る結果となり、「聞いたことがある」まで合わせると6割を超えている。特に、学校の授業でも題材にされることが多くなっている背景もあり、10代または学生での認知度が高くなっており、20代以下の若年層の方が「よく知っている」との回答が多い結果となっている。

ii SDGs 17の目標

問27 あなたはSDGsの17の目標のうち、山梨県としてどの目標に特に取り組んでいくべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



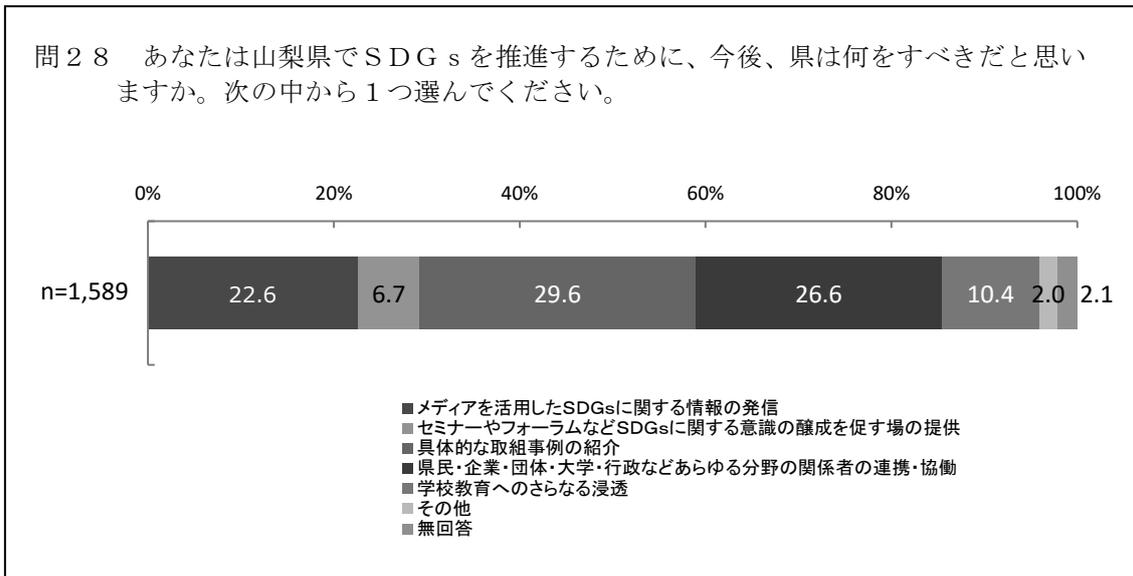
※令和3年度に設問新設

SDGsの17の目標のうち山梨県として特に取り組んでいくべき目標については、「すべての人に健康と福祉を」(52.8%)の回答率が最も高く、以下「住み続けられるまちづくりを」(45.6%)、「貧困をなくそう」(31.5%)、「働きがいも経済成長も」(26.9%)と続いている。

本問は、持続可能な社会の実現に向けたSDGsにおける17の目標について、どの目標に対する取り組みが重要と認識されているかを把握するために新設した。およそどの属性においても目標3「すべての人に健康と福祉を」が最も選ばれており、2番目に目標11「住み続けられるまちづくりを」が選ばれている。また、学生においては目標4「質の高い教育をみんなに」が、自由業においては「気候変動に具体的な対策を」の回答率が比較的高くなるなど、属性によって重視する目標が変わる結果となっている。

iii SDGsの推進

問28 あなたは山梨県でSDGsを推進するために、今後、県は何をすべきだと思いますか。次の中から1つ選んでください。



※令和3年度に設問新設

山梨県でSDGsを推進するために県が取り組むべきことについては、「具体的な取組事例の紹介」(29.6%)の回答率が最も高く、以下「県民・企業・団体・大学・行政などあらゆる分野の関係者の連携・協働」(26.6%)、「メディアを活用したSDGsに関する情報の発信」(22.6%)、「学校教育へのさらなる浸透」(10.4%)と続いている。

本問は、SDGsの推進について、どのような施策が重要と認識されているかを把握するために新設した。最も回答率が高くなったのは「具体的な取組事例の紹介」であり、SDGsについて具体的にどのような取り組みを行うべきかを知りたいということに県民の関心が高い。

また、「県民・企業・団体・大学・行政などあらゆる分野の関係者の連携・協働」の回答率も高かったが、特に若年層において回答率が高かったほか、「自営業・家族従業者」の属性において比較的重視されている。